

授業科目名	日本国憲法	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	沼口 智則	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育職員免許法施行規則第66条の6に 定める科目（日本国憲法）
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 日本国憲法は、人権規定と統治機構【三権分離】に大きく分けられます。本講は人権規定を中心に講義する中から憲法の全体像に迫っていく予定。以下4つの柱を中心に講義を進めていく。1、憲法とは？（近代立憲主義の歴史）2、ビデオ学習『日本国憲法を生んだ密室の9日間』3、基本的人権とは？4、国際平和と日本（憲法9条とそのゆくえ）			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 21世紀が刻まれていく中、日本国憲法が施行されてから、既に80年近くが経過した。本講は、最近の改憲議論を整理・検討すると共に、この半世紀を超える重みの中での日本国憲法の存在意義を考えることをメインテーマとしたい。と同時に、改憲の行方や憲法を通じて、私達はこの21世紀をどういきるのかということも考えてみたい。達成目標は、1, 講義での基礎知識を踏まえ「憲法とは何か？」を自分の言葉で説明できること。2, 施行78年の中での日本国憲法の問題点や課題を自分で整理・検討する力をつけること。3, 憲法との関係で自分の生き方や日本のあり方を考える問題意識を養っていくこと。			
<b>授業計画</b> 第1回：憲法とは？「法の中の法」としての憲法＝『法への入門』Ⅰ近代立憲主義の歴史 第2回：憲法とは？「法の中の法」としての憲法＝『法への入門』Ⅱ日本の新・旧憲法 第3回：視聴覚教材 『日本国憲法を生んだ密室の9日間』ⅠなぜGHQが日本国憲法の草案を手懸けなければならなかったのか？ 第4回：視聴覚教材『日本国憲法を生んだ密室の9日間』Ⅱ象徴天皇制の起源は？ 第5回：視聴覚教材 『日本国憲法を生んだ密室の9日間』Ⅲ第9条：基本的人権の規定は誰が書いたのか？ 第6回：主権とは？（日本国憲法と大日本帝国憲法の主権の比較） 第7回：日本国憲法の三大特色（国民主権・平和主義・基本的人権の尊重） 第8回：基本的人権とは？（人権総論・人権成立の歴史）Ⅰ 1945年以前 第9回：基本的人権とは？（人権総論・人権成立の歴史）Ⅱ 1945年以降 第10回：女性の権利（平等権を中心に）「憲法と民法」Ⅰ ベアテ草案と憲法14条・24条 第11回：女性の権利（平等権を中心に）「憲法と民法」Ⅱ 憲法・民法の中での女性の権利 第12回：三権分立（とりわけ司法権の独立・違憲立法審査権）「憲法と刑法・裁判制度」 第13回：国際平和と日本Ⅰ（憲法第9条には何が書かれているか？） 第14回：国際平和と日本Ⅱ（自衛隊・安保条約・PKO・日本の国際貢献） 第15回：まとめ「改憲のゆくえ」＝「日本よ、どこへ行く？」 <b>定期試験</b>			
テキスト	『入門憲法講義—考える憲法』 沼口智則 晃洋書房 2022		
参考書・ 参考資料等	講義中に適宜紹介していく		
学生に対する 評価	定期試験（80％）と授業内での小レポート（1～2回）（20％）により、総合的に評価する。授業目標の1～3の達成度を確認するため、授業内での小レポート及び定期試験を実施する。		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	小レポートに向けて、各自復習をすること 事前にテキストを読んでおくこと		

授業科目名	体育理論	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	喜多 宣彦	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育職員免許法施行規則第66条の6に 定める科目（体育）
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（15時間）
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> スポーツや運動を通して、健康的な生活を過ごすための基礎的な知識を学習していく。 また、スポーツや運動を安全に実施するための注意点を学んでいく。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 学生がそれぞれの運動やスポーツにおける身体の生理学的変化や適応現象について、スポーツ生理学、スポーツ栄養学等の基礎的知識を学習する。			
<b>授業計画</b> 第1回： スポーツ生理学（1）熱中症 第2回： スポーツ生理学（2）運動と筋肉、運動と循環 第3回： スポーツ生理学（3）運動と呼吸、運動と神経 第4回： スポーツ生理学（4）運動と骨、 第5回： スポーツ生理学（5）急性の障害、慢性の障害 第6回： スポーツ生理学（6）外傷と障害、外傷と障害の対策 第7回： スポーツ生理学（7）運動と肥満 第8回： スポーツ栄養学(1) 運動と食事管理、エネルギーと栄養のかかわり 第9回： スポーツ栄養学(2) 栄養素と栄養障害、アスリートのための食事 第10回： スポーツ栄養学(3)運動と栄養のバランス 第11回： スポーツ栄養学（4）生活習慣病と運動処方 第12回： スポーツ栄養学（5）人間の成長と発達 第13回： ストレッチング 理論と実際 第14回： テーピング 目的と効果 第15回： ストレッチング・テーピング まとめ <b>定期試験</b>			
テキスト	資料プリント配布		
参考書・ 参考資料等	「やさしいスポーツ医科学の基礎知識」嵯峨野書院 適宜紹介していく。		
学生に対する 評価	定期試験（70％）・レポート課題（30％）		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業終了後の対応として、次回内容説明と本時の質問などを受けている。		

授業科目名	体育実技	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	喜多 宣彦	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育職員免許法施行規則第66条の6に 定める科目（体育）
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（45時間）
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	実技・単独
<b>授業の概要</b> 体力測定をすることにより自己の体力を把握し、自分の健康維持のための機会とする。スポーツを楽しむために必要なコミュニケーション力、協働性を身に付けるためにグループ学習法を導入している。学生はグループの中での積極的な役割と責任を果たしながら、仲間とともに楽しみ、ゲーム力の向上を図ること。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 様々なスポーツを通して、楽しさや喜びを経験させ、運動に対する意欲や関心を深める。スポーツのあり方、楽しみを学習し、身体を動かすことの充実感を味わう。 基礎技術の習得と仲間とのチームワークの大切さを認識する。			
<b>授業計画</b> 第1回： オリエンテーション・基礎トレーニングⅠ 第2回： スポーツ実技 体力測定Ⅰ 各自評価する 第3回： スポーツ実技 バレーボールⅠ 基本練習 ルール理解 第4回： スポーツ実技 バレーボールⅡ 基本練習 応用技術 第5回： スポーツ実技 バレーボールⅢ 実践練習 リーグ戦 第6回： スポーツ実技 ニュースポーツ ルール理解 ゲーム 第7回： スポーツ実技 バドミントンⅠ 基本練習 ルール理解 第8回： スポーツ実技 バドミントンⅡ・卓球 基本練習 ルール理解 ゲーム 第9回： スポーツ実技 バスケットボールⅠ 基礎練習 ルール理解 第10回： スポーツ実技 基礎トレーニングⅡ 第11回： スポーツ実技 バスケットボールⅡ 実践練習 リーグ戦 第12回： スポーツ実技 フットサルⅠ 基本練習 ルール理解 ゲーム 第13回： スポーツ実技 フットサルⅡ 実践練習 リーグ戦 第14回： スポーツ実技 ハンドボール 基本練習 ルール理解 ゲーム 第15回： スポーツ実技 体力測定Ⅱ 各自評価する <b>定期試験</b>			
テキスト	特になし		
参考書・ 参考資料等	幼稚園教育要領解説（平成29年3月31日告示 文部科学省）保育所保育指針解説（平成29年3月31日告示 厚生労働省）幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月31日告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
学生に対する 評価	実技試験（80％）・種目別基本実技のレポート（20％）		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業終了後の対応として、次回内容説明と本時の質問などを受けている。		

授業科目名	英語コミュニケーション	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	ダンカン・ホワイト	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育職員免許法施行規則第66条の6に 定める科目（外国語）
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（60時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 教育場面における英語の重要性が増す中で、保育・教育の日常的な話題について、話したり書いたりして伝える基本的な能力を養い、英語を用いてコミュニケーションを図る力を養う。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 基本的な英語文法を踏まえて、英文における内容把握、聞く能力、会話力の上達、意志の表現力を目指す。また、諸外国の年中行事等の一般常識を備え、その意義を深める。			
<b>授業計画</b> 第1回：自己紹介 授業計画について 第2回：一般動詞(過去形) 第3回：be動詞(過去形) 第4回：過去進行形 第5回：進行形/教科書 第6回：”Mother’s Day & Father’s Day “ 第7回：be going toについて 第8回：will①について 第9回：will②について 第10回：天気について 第11回：人物①について 第12回：人物②について 第13回：不定詞/教科書 第14回：不定詞/教科書 第15回：不定詞/教科書（総復習） <b>定期試験</b>			
テキスト	3分リスニング（中級）正進社 「キッズ・ブック」 「保育の英会話」 Childcare English 赤松直子・久富陽子著 萌文書林		
参考書・ 参考資料等	“American Holidays” by Barbara Klebanow/Sara Fischer, PHD published by PROLINGUA ASSOCIATES		
学生に対する 評価	定期試験（80％）授業中の小テスト・提出物（20％）を総合的に判断する。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業の前後に予習・復習する。		

授業科目名	英語コミュニケーション	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	ダンカン・ホワイト	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育職員免許法施行規則第66条の6に 定める科目（外国語）
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（60時間）
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 教育場面における英語の重要性が増す中で、保育・教育の日常的な話題について、話したり書いたりして伝える基本的な能力を養い、英語を用いてコミュニケーションを図る力を養う。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 基本的な英語文法を踏まえて、英文における内容把握、聞く能力、会話力の上達、意志の表現力を目指す。また、諸外国の年中行事等の一般常識を備え、その意義を深める。			
<b>授業計画</b> 第1回：look+形容詞 第2回：give, show+人+もの 第3回：to+動詞の原形 第4回：副詞的用法 第5回：形容詞的用法 第6回：have toについて 第7回：must/must notについて 第8回：電話について 第9回：接続詞whenについて 第10回：接続詞if 第11回：接続詞because 第12回：病気 第13回：手紙（日本語/英語）の書き方 第14回：動名詞 第15回：クリスマスカード制作、総復習 <b>定期試験</b>			
テキスト	3分リスニング（中級）正進社 「キッズ・ブック」 「保育の英会話」 Childcare English 赤松直子・久富陽子著 萌文書林		
参考書・ 参考資料等	“American Holidays” by Barbara Klebanow/Sara Fischer, PHD published by PROLINGUA ASSOCIATES		
学生に対する 評価	定期試験（80％）授業中の小テスト・提出物（20％）を総合的に判断する。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業の前後に予習・復習する。		

授業科目名	情報処理	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	木本 泰洋	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育職員免許法施行規則第66条の6に 定める科目（情報機器の操作）
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（60時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 基礎的な知識や技能を身につけ、あらゆる状況に対応できる能力を高める。 教育現場において活用されているであろう素材を使い、幼稚園・保育園通信の作成練習をする。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> パソコン及びマイクロソフトオフィスの基礎的な理解と利用技術を習得する。 授業で得た知識と技術を活用し、教育現場に求められる水準の技能を身につける。			
<b>授業計画</b> 第1回：パソコンの基本操作① 第2回：パソコンの基本操作② 第3回：ワープロソフトの機能と操作① 第4回：ワープロソフトの機能と操作② 第5回：簡単なおたよりの作成① 第6回：簡単なおたよりの作成② 第7回：図表の挿入① 第8回：図表の挿入② 第9回：図表が入ったおたよりの作成① 第10回：図表が入ったおたよりの作成② 第11回：複雑なレイアウトのおたよりの作成① 第12回：複雑なレイアウトのおたよりの作成② 第13回：表計算ソフトの機能と操作① 第14回：表計算ソフトの機能と操作② 第15回：作表とかんたんな計算① <b>定期試験</b>			
テキスト	パーフェクトガイド情報 Office2021対応：実教出版		
参考書・ 参考資料等	保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7対応：萌文書林 30時間でマスター Office2021（Windows11対応）：実教出版		
学生に対する 評価	定期試験（60％） 提出課題（40％）		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業開始前に準備と個人学習 終了後に質問対応をしている。		

授業科目名	情報処理	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	木本 泰洋	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育職員免許法施行規則第66条の6に 定める科目（情報機器の操作）
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（60時間）
開講学年・時期	2年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 基礎的な知識や技能を身につけ、あらゆる状況に対応できる能力を高める。 教育現場において活用されているであろう素材を使い、幼稚園・保育園通信の作成練習をする。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> パソコン及びマイクロソフトオフィスの基礎的な理解と利用技術を習得する。 授業で得た知識と技術を活用し、教育現場に求められる水準の技能を身につける。			
<b>授業計画</b> 第1回：作表とかんたんな計算② 第2回：児童台帳作成，および検索と集計① 第3回：児童台帳作成，および検索と集計② 第4回：身体計測記録台帳作成とグラフ表示① 第5回：身体計測記録台帳作成とグラフ表示② 第6回：行事写真購入申し込み管理簿の作成① 第7回：行事写真購入申し込み管理簿の作成② 第8回：プレゼンテーションソフトの機能 第9回：プレゼンテーションソフトの操作 第10回：プレゼンテーション① 第11回：プレゼンテーション② 第12回：ネットワーク① 第13回：ネットワーク② 第14回：パソコンリテラシーと情報倫理① 第15回：パソコンリテラシーと情報倫理② <b>定期試験</b>			
テキスト	パーフェクトガイド情報 Office2021対応：実教出版		
参考書・ 参考資料等	保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7対応：萌文書林 30時間でマスター Office2021（Windows11対応）：実教出版		
学生に対する 評価	定期試験（60％） 提出課題（40％）		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業開始前に準備と個人学習 終了後に質問対応をしている。		

授業科目名	社会学	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	長澤 敦士	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	選択科目	単位数	2単位 (30時間)
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 「他者と“共にある”ための技法を考える」授業の目的は「わたしたちは一人で生きているわけではない。」という「あたりまえ」の事実を起点にして、「他者と“共にある”ための技法」を受講生のみなさんと一緒に探求することです。そのために、この授業では社会学の基礎的な概念を紹介するとともに、社会学の個別具体的な調査・研究事例に触れながら、みなさんと社会的なモノの見方や考え方を共有します。授業は講義と受講生同士の対話（グループディスカッションや受講生による発表）を往復しながら行います。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 1. 社会学の基本的な事項を「自分の言葉」で説明することができる。 2. 児童福祉や幼児教育にかかわる現象を社会的なモノの見方や考え方から説明ができる。			
<b>授業計画</b> 第1回：はじめに 「わたし」を社会に開くということ 第2回：ふたつの社会学 「他者」という技法を考えるための視座としての社会学 第3回：体育会系の「ノリ」で〈絆〉は生まれるのか？「労働」を社会的に考える① 第4回：「働くこと」が「自立する」ことなのか？「労働」を社会的に考える② 第5回：家族に「愛」は必要なのか？ 「家族」を社会的に考える① 第6回：家事と育児に伴う「困難」とは何か？「家族」を社会的に考える② 第7回：「性別」はどのように区別されるのか？ 「性別」を社会的に考える 第8回：わたしたちは学校で何を学んでいるのか？ 「教育」を社会的に考える① 第9回：運も実力のうち、とは言うけれど「教育」を社会的に考える② 第10回：中間まとめ ここまでの学びを振り返る（「戦後日本型循環モデル」） 第11回：「フツーの子」と「そういう子」「社会問題」を社会的に考える① 第12回：社会問題は「解決」できるのか？「社会問題」を社会的に考える② 第13回：「見守ること」と「監視すること」の違いは何か？「ケア」を社会的に考える① 第14回：スマイルは「無料（タダ）」なのか？「ケア」を社会的に考える② 第15回：おわりに 「わたし」が社会を拓くということ <b>定期試験</b> ※上記の授業計画はあくまで予定であり、受講生の興味・関心によって計画を変更する場合があります。			
テキスト	授業内で適宜紹介します。ただし、以下の本は社会的なモノの見方や考え方を感じるにあたって、比較的読みやく、入手しやすい文献です。		
参考書・ 参考資料等	筒井淳也（2020）『社会を知るためには』（ちくまプリマー新書）、筑摩書房。本田由紀（2021）『「日本」ってどんな国？：国際比較データで社会が見えてくる』（ちくまプリマー新書）、筑摩書房。宮内泰介（2024）『社会学をはじめる：複雑さを生きる技法』（ちくまプリマー新書）、筑摩書房。奥村隆（2024）『他者という技法：コミュニケーションの社会学』（ちくま学芸文庫）、筑摩書房		
学生に対する 評価	定期試験60%（定期試験は論述形式を予定しています。） 授業内評価40%（コメントシートの内容、講義内での発表等）		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業終了後に、質問を受ける。 授業前後に、予習・復習をする。		



授業科目名	生物学	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	本多 俊之	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	選択科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 1) 生物や自然についてのイメージをもつ。 2) 現代人の基礎知識を学ぶ。 3) 保育の中で活用できる身近な自然についての知識を得る。 4) 観察眼を養う。 5) 合理的な思考法を学ぶ。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> この授業では野外での体験を重視し、およそ半分の時間を自然観察や体験活動に使います。室内での授業では、野外での見聞をもとに生物学の論理を学びます。こどもたちと身近な生き物たちの橋渡しになれるように学びましょう。			
<b>授業計画</b> 身近な自然 1～6 は野外自然観察 第1回：オリエンテーション 第2回：身近な自然1「昆虫」 第3回：身近な自然2「ダンゴムシ」 第4回：身近な自然3「植物」 第5回：身近な自然4「校庭の樹木」 第6回：身近な自然5「どんぐり」 第7回：植物 第8回：動物 第9回：身近な自然6「野鳥」 第10回：身近な自然のまとめ 環境マップづくり 第11回：遺伝 第12回：生物と環境1生態学 第13回：生物と環境2生物多様性・里山・生物多様性の危機 SDG s 第14回：進化・動物の行動 第15回：チリメンモンスター体験 <b>定期試験</b>			
テキスト	授業内、適宜資料配布		
参考書・ 参考資料等	プリント（植物やどんぐり名前や関連性についての参考プリント）		
学生に対する 評価	定期試験（80％） 提出課題（20％） 身近な自然や生物について関心をもち、誠実に学ぶ姿勢をもっていること。論理的な思考法を身につけること。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前に、授業準備を教員と行う。授業前後に、60分程度、学習する。		

授業科目名	国語表現法	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	谷 哲史	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	選択科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 表現するために、音声・文法・表記・語句・語彙・漢字・書写等に取り組みながら、国語の総合的な力を身に付けることに取り組む。そして、分かりやすく的確に、論理的に伝えられる文章の書き方、国語表現力を身に付けることを目指す。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 保育の現場において、文章で記録をすることは、子どもやその保護者を支援していくために、欠かせない仕事の一つである。本授業では、保育者として記録できる力の向上を目指して、国語学習（書く・読む・話す・聞く等）に総合的に取り組んでいく。			
<b>授業計画</b> 第1回：授業ガイダンス（教科の目標、授業内容、評価の方法等） 第2回：文章表現の基本① 文章の作成を通して、分かりやすく伝える文章を書く 第3回：文章表現の基本② 文章を正しく読み取り、表現を味わう 第4回：文章表現の基本③ 文章を正しく読み取り、要旨を捉える 第5回：文章表現の基本④ 論理的な文章を書くための文章構成とは？ 第6回：文章表現の基本⑤ 課題について、文章を作成し、発表する（グループワーク） 第7回：日本語における敬語表現① 敬語表現を用いて話す 第8回：日本語における敬語表現② 敬語表現を用いて文章を書く 第9回：漢字学習① 読み間違い・書き間違いやすい漢字を書く・読む 第10回：漢字学習② 保育現場における頻出用語を書く・読む 第11回：随筆文（エッセイ）について① 考えや思いを捉え、随筆文（エッセイ）を読む 第12回：随筆文（エッセイ）について② 随筆文（エッセイ）の構成を理解する 第13回：文法① 品詞の分類 第14回：文法② 文節分け、読点の打ち方 第15回：まとめ 授業を振り返り、課題文に取り組む <b>定期試験</b>			
テキスト	適宜、授業内でレジメ・資料を配布		
参考書・ 参考資料等	『保育学生のための基礎学力演習—教養と国語力を伸ばす30Lesson』（中央法規出版） 『保育者になるための国語表現』（萌文書林）『保育のマナーと言葉』（わかば社） 『幼児教育学生のための日本語表現法』（東信堂）		
学生に対する 評価	定期試験（70%）小テスト、作文など提出物（30%）		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業前後には、レジメ・資料を読んで、予習・復習をすること		

授業科目名	こどもと音楽表現	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	遠藤 桂子・遠藤 康子 村上ひろみ・上野かおり	施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 表現
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（60時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	演習・複数
<b>授業の概要</b> 保育を通して経験する実例を取り上げ、弾き歌いを演習する。年齢による発達の違いや感性の成長度を考慮し、行事や季節を取り入れた表現活動を実践する。打楽器を使ったリズム演奏を行い、幼児の器楽合奏における奏法と指導法を学ぶ。指揮法の基礎を演習し、保育現場での表現の幅を広げることににつなげていく。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 教育・保育を通して経験する実例を取り上げ、弾き歌いを演習する。年齢による発達の違いや感性の成長度を考慮し、行事や季節を取り入れた表現活動を実践する。打楽器を使ったリズム演奏を行い、幼児の器楽合奏における奏法と指導法を学ぶ。指揮法の基礎を演習し、保育現場での表現の幅を広げることににつなげていく。			
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 練習の仕方・表現の取り組みについて 第2回：言葉の発音について 歌詞の大切さ 作詞家の思い 第3回：演奏や指導をするときの表情について 発声と眼筋トレーニング 第4回：歌う表情を研究 鏡を使って表情を再確認しよう 腹式呼吸を意識する 第5回：美しい発声 地声と裏声 自然な発声 第6回：生活の歌を弾き歌いする 歌詞を丁寧に読みとろう 作曲家を知ろう 第7回：弾き歌いの左手を工夫しよう 旋律と伴奏のバランス 第8回：演奏の速度に注意して聴こう テンポ設定の取り組み 第9回：メロディーラインの考察 音楽の表情を感じる 「わらべ歌」「カノン」 第10回：楽譜の特徴について 作品の性格をとらえる リズム遊び 第11回：楽譜の読み方 楽譜の読み方 姿勢を正して拍子を感じてみよう 第12回：楽器の活用 アンサンブルの楽しみ 小編成合奏 第13回：ハーモニーを感じてみよう アインザッツと呼吸を感じよう 第14回：メロディー・リズム・和声を感じてみよう 第15回：保育現場を想定して歌を指導する <b>定期試験</b> 弾き歌い曲を演奏 実技試験			
テキスト	弾き歌い曲の冊子を配布 適宜、必要な楽譜を冊子で配布		
参考書・ 参考資料等	幼稚園教育要領解説（平成29年3月31日告示 文部科学省）保育所保育指針解説（平成29年3月31日告示 厚生労働省）幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月31日告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
学生に対する 評価	実技試験（70％） ・小テスト（30％） を総合して評価する。		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業前後に、予習・復習をする。		

授業科目名	こどもと音楽表現	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	遠藤 桂子・遠藤 康子 村上ひろみ・上野かおり	施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 表現
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位 (60時間)
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	演習・複数
<b>授業の概要</b> 保育を通して経験する実例を取り上げ、弾き歌いを演習する。年齢による発達の違いや感性の成長度を考慮し、行事や季節を取り入れた表現活動を実践する。打楽器を使ったリズム演奏を行い、幼児の器楽合奏における奏法と指導法を学ぶ。指揮法の基礎を演習し、保育現場での表現の幅を広げることに繋げていく。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 教育・保育を通して経験する実例を取り上げ、弾き歌いを演習する。年齢による発達の違いや感性の成長度を考慮し、行事や季節を取り入れた表現活動を実践する。打楽器を使ったリズム演奏を行い、幼児の器楽合奏における奏法と指導法を学ぶ。指揮法の基礎を演習し、保育現場での表現の幅を広げることに繋げていく。			
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 練習の仕方・より深い表現の取り組みについて 第2回：言葉の発音について 日本語の美しさ 歌詞の研究 作詞家を調べよう 第3回：演奏時の姿勢と表情を研究する 日々の発声 第4回：歌う表情について グループで演奏 腹式呼吸を深める 第5回：美しい発声 ハミング 第6回：生活の歌を弾き歌いする 共に演奏する喜びを表現する 第7回：左手奏法を見直す 伴奏の形を学ぶ 第8回：演奏の速度について考えよう テンポ感をつけよう 第9回：メロディーと和声 模倣と輪唱 第10回：楽譜(総譜)を縦に読む 低音をたどる 第11回：拍子の種類を聴き比べよう 第12回：楽器の活用 アンサンブル続編 第13回：呼吸と合図 合わせる楽しさ 第14回：メロディー・リズム・和声の分析 第15回：保育現場での教材研究 <b>定期試験</b> 弾き歌い曲を演奏 実技試験			
テキスト	弾き歌い曲の冊子を配布 適宜、必要な楽譜を冊子で配布		
参考書・ 参考資料等	幼稚園教育要領解説（平成29年3月31日告示 文部科学省）保育所保育指針解説（平成29年3月31日告示 厚生労働省）幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月31日告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
学生に対する 評価	実技試験(70%) ・小テスト(30%) を総合して評価する。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後に、予習・復習をする。		

授業科目名	こどもと造形表現	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	谷崎 三保子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 表現
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位 (30時間)
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 保育・幼児教育の現場における『造形表現』にかかわる活動内容を理論と実技を通して、乳幼児の造形表現の基礎を理解する。さらにさまざまな表現活動における指導法を身につけることを目的とする。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 造形活動において、手に触れる様々な材料や用具等は、子ども達にとって、初めて手に触れるものとして、正しい扱い方や遊び方等をしっかりと伝えていくことが大切である。そして、造形の活動に使用する材料・用具に興味と関心を持ち、体験をしながら、造形の楽しさと基礎的な手法を学んでいく。			
<b>授業計画</b> 第1回： 授業概要説明 / 折り紙の技法 1 (箱・花・独楽) 第2回： 折り紙の技法 2 (切り紙) 第3回： 紙工作 1「ポップアップカード」 第4回： クレパスの技法 (混色・スクラッチ・指こすり・ステンシル) 第5回： 素材研究 1 (ペットボトルの蓋) 集団で遊べるおもちゃ作り 第6回： 色彩の基本 1 講義「色彩の基本」・絵の具による色相環作り 第7回： 色彩の基本 2 絵の具による色見本作り (純色・明清色・暗青色・濁色) 第8回： 絵の具の技法 1 (バチック・デカルコマニー・にじみぼかし) 第9回： 絵の具の技法 2 (マスキング) 第10回： 素材研究 2 (紙コップ) 「おもちゃ 5 種」 第11回： 墨の技法 (割り箸ペンによる線画・にじみぼかしの表現) 第12回： 紙工作 2 遊べるおもちゃ作り「釣りセット」 第13回： 紙工作 3 季節の行事の飾り「七夕飾り」 第14回： 素材研究 3 (新聞紙) 第15回： 自然物の写生 「季節の果物」 絵の具・クレパス <b>定期試験</b>			
テキスト	子どもや卒業生の作品等 作り方のプリント		
参考書・ 参考資料等	幼稚園教育要領解説 (平成29年3月31日告示 文部科学省) 保育所保育指針解説 (平成29年3月31日告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月31日告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)		
学生に対する 評価	定期試験 (60%) 作品、準備に取り組む姿勢・提出作品 (40%) を総合して評価する		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業時前の準備の対応を学修する。授業後に質問を受けている。		

授業科目名	こどもと造形表現Ⅱ	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	谷崎 三保子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 様々な素材やテーマに取り組むことにより、技術を身につけながら創造性と意欲を育む。集団の中で制作することにより、他者との違いを楽しみ、表現の可能性についての見識を深める。自己表現の喜びを知るため、創意工夫を十分に認め、達成感を持たせる。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 絵画・造形表現の楽しさを体験し、意欲的に取り組む姿勢を身につける。様々な用具や素材に触れ、基本的な技術を知り、表現の可能性を探る。こどもにわかりやすく伝えられる方法を考察する。			
<b>授業計画</b> 第1回：素材研究1（新聞紙）「ちぎり絵」 第2回：絵の具の技法1（たらし絵・吹き絵・玉転がし・糸引き絵） 第3回：版画の技法1（スチレン版画） 第4回：版画の技法2（紙版画） 第5回：紙工作1 季節の行事「ハロウィン」 第6回：版画の技法3（スタンピング・ステンシル） 第7回：自然物の写生「秋の彩・落ち葉」 第8回：音の鳴る工作「楽器作り」（タンバリン・カスタネット・マラカス） 第9回：講義「描画における子どもの発達段階」 第10回：絵の具技法2（にじみぼかし）＋紙工作「リース作り」 第11回：素材研究2（カラーセロファン）「ステンドグラス」 第12回：素材研究3（羊毛フェルト）「音玉作り」 第13回：絵本の世界を描く 第14回：素材研究4（紙粘土）「ひな人形」造形 第15回：素材研究5（紙粘土）彩色・ニス塗り <b>定期試験</b>			
テキスト	子どもや卒業生の作品等 作り方のプリント		
参考書・ 参考資料等	「保育に役立つ絵画遊び技法百科」「用事造形の基礎」		
学生に対する 評価	定期試験（60％） 作品、準備に取り組む姿勢・提出作品（40％）を総合して評価する。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業時前の準備の対応を学習する。授業後に質問を受けている。		

授業科目名	こどもと健康	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	近森 卓 小林 浩之・野中 耕次	施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 健康
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	演習・複数
<b>授業の概要</b> 【座学】必要に応じて、資料を作成し配布。 【実技】実感をもとに発達過程の理解を深めるべく、様々な運動あそびを実践し、保育における留意点を学んでいく。（学生各自の運動技量の習熟を問うものではない）【グループワーク】講義期間後半には、学習内容を振りかえりつつ、実際に運動あそびを計画して模擬保育を行うことで、効果的な説明・援助・はげましといった実践経験を得る。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 乳幼児期のこどもにとっての「健康」をテーマとし、心身の発育発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動遊びと発達の関係、施設・設備の環境整備に関する具体的な方法や知識を理解する。幼児の発達特性を踏まえた運動あそびや活動のあり方を、演習を通じて考察し、実務において役立つ知識と技量を身につける。（１）幼児期の健康課題と健康の発達の意味について理解している。（２）幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解している。（３）安全な生活と怪我や病気の予防を理解している。（４）幼児期の運動発達の特徴と意義を理解している。（５）幼児期の特性に沿った運動あそびを学ぶ。			
<b>授業計画</b> 第１回：オリエンテーション：健康の定義 第２回：乳幼児期のこどもにとっての「健康」 【準備運動と基本動作】 第３回：５つの領域１０の姿 【サーキットあそび】 第４回：子どもの体力・発達について 【サーキットあそび】 第５回：器具を使った運動 マット① 【年齢別習得のめやす・指導方法・補助】 第６回：器具を使った運動 マット② 【年齢別習得のめやす・指導方法・補助】 第７回：器具を使った運動 跳び箱① 【年齢別習得のめやす・指導方法・補助】 第８回：器具を使った運動 跳び箱② 【年齢別習得のめやす・指導方法・補助】 第９回：器具を使った運動 鉄棒① 【年齢別習得のめやす・指導方法・補助】 第１０回：器具を使った運動 鉄棒② 【年齢別習得のめやす・指導方法・補助】 第１１回：道具を使った運動 ボール 【年齢別習得のめやす・指導方法・援助】 第１２回：道具を使った運動 なわとび 【年齢別習得のめやす・指導方法・補助】 第１３回：運動あそびの模擬保育 【計画立案】 第１４回：運動あそびの模擬保育 【実演と課題の抽出】 第１５回：運動あそびの模擬保育 【実演と課題の抽出】 <b>定期試験</b>			
テキスト	「幼児期の運動あそびと健康―理論と実践―」2020 不昧堂出版		
参考書・参考資料等	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」		
学生に対する評価	定期試験（70％）種目別基本実技の小テスト（30％）		
授業時間外の学修（準備・復習）	授業前の準備の安全性の対応を学習し、授業終了後に質問などを対応する。		

授業科目名	音楽理論 I	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	遠藤 桂子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位 (30時間)
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 読譜の基礎知識を学び、それらを表現する技術を学ぶ。テキストを使って、楽典の知識力をつける。呼吸法、発声法を学び歌唱力をつける。弾き歌いの演習を行う。コールユーブンゲンとリズム譜を使って表現技術を学ぶ。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 幼児の音楽的な表現活動に多くの影響を与える保育者の音楽能力を高めるため、音楽的な基礎知識と技術を学ぶ。正確な読譜力とそれらを再現する表現力を身につける。			
<b>授業計画</b> 第1回：大譜表と音部記号 発声の基礎 表情づくり コールユーブンゲン・リズム演習 第2回：音名と階名 呼吸方と腹式呼吸 コールユーブンゲン・リズム演習 第3回：音符と休符 拍子 フレージングを感じて歌う コールユーブンゲン・リズム演習 第4回：リズムと拍子 指揮を兼ねた合図 校歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第5回：復習試験 生活の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第6回：音程 生活の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第7回：長調と短調 行事の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第8回：長音階 季節の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第9回：短音階 季節の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第10回：調の関係 季節の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第11回：復習試験 乗り物の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第12回：楽譜上の記号 動物の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第13回：楽譜上の記号 植物の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第14回：指揮法の基礎 エンターテイメントの歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第15回：リズム奏試験 コールユーブンゲン・弾き歌い試験 <b>定期試験</b> 楽典の筆記試験			
テキスト	楽典と弾き歌いのテキストを冊子で配布		
参考書・ 参考資料等	必要に応じてプリントを配布		
学生に対する 評価	定期試験（70％）・小テストレポート課題（30％）を総合して評価する。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後に、予習・復習をする。		



授業科目名	音楽理論Ⅱ	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	遠藤 桂子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	選択科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 読譜の基礎知識を学び、それらを表現する技術を学ぶ。コードネームのテキストを使って、視奏技術の向上を目指す。コードネームを使用した弾き歌いの演習を行う。コールユーブンゲンとリズム譜を使って表現技術を学ぶ。合奏の基礎を演習する。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 幼児の音楽的な表現活動に多くの影響を与える保育者の音楽能力を高めるため、音楽的な基礎知識と技術を学ぶ。正確な読譜力とそれらを再現する表現力を身につける。音楽理論Ⅰで学んだ技術を更に向上させるように演習する。			
<b>授業計画</b> 第1回：コードネームと音階 発声と表情づくり コールユーブンゲン・リズム演習 第2回：ハ長調の2コード 呼吸方と腹式呼吸 コールユーブンゲン・リズム演習 第3回：ハ長調の2コード・3コード レーシング解釈 コールユーブンゲン・リズム演習 第4回：ハ長調の3コード 校歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第5回：ヘ長調の2コード 生活の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第6回：ヘ長調の2コード・3コード 生活の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第7回：ヘ長調の3コード 行事の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第8回：ヘ長調の3コード 行事の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第9回：ト長調の2コード 季節の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第10回：ト長調の2コード・3コード 季節の歌 コールユーブンゲン・リズム演習 第11回：ト長調の3コード 動物・植物の歌 基礎合奏・リズム演習 第12回：ト長調の3コード メディアの歌 基礎合奏・リズム演習 第13回：コードネーム演習問題 メディアの歌 基礎合奏・リズム演習 第14回：コードネーム演習問題 コード視奏試験 メディアの歌 基礎合奏・リズム演習 第15回：コードネーム演習問題 コード譜による弾き歌い試験 <b>定期試験</b> コードネームの筆記試験			
テキスト	コードネーム演習テキストを冊子で配布 弾き歌いテキストを冊子で配布		
参考書・ 参考資料等	コード演習・筆記演習問題・基礎合奏の資料を必要に応じて配布		
学生に対する 評価	定期試験（70％）・小テストレポート課題（30％）を総合して評価する。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後に、予習・復習をする。		

授業科目名	音楽器楽Ⅱ	科目区分	教職・保育に関する科目																																																																												
担当教員名	遠藤 桂子・遠藤 康子 村上ひろみ・上野かおり	施行規則に定める 科目区分又は事項等																																																																													
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（60時間）																																																																												
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	演習・複数																																																																												
授業の概要 個人レッスンでバイエル・ブルグミュラー・ソナチネなどの教則本を演習する。グレード表の進度別に年２回、実技試験を行う。																																																																															
授業のテーマ及び到達目標 保育の現場に必要な、多様な音楽に対応できるための適切なピアノ奏法を修得する。未経験者・初心者について基礎から演習を始める。経験者は、より一層の表現・解釈を修得し音楽的な技術の向上を図る。																																																																															
<table><tr><th colspan="2">初 級</th><th colspan="2">中 級</th><th colspan="2">上 級</th></tr><tr><td rowspan="3">スタートグレード</td><td>バイエル 15 16 18</td><td rowspan="3">グレードⅤ</td><td>バイエル 104 100 102</td><td rowspan="3">グレードⅧ</td><td>Ⅰ-6-1 Ⅱ-4-1 Ⅱ-14-1</td></tr><tr><td>21 24 26</td><td>103 105 106</td><td>Ⅰ-10-1 Ⅰ-9-1 Ⅰ-12-1</td></tr><tr><td>29 38 39</td><td>ブルグミュラー 2 3 5 7</td><td>Ⅱ-3-1</td></tr><tr><td rowspan="3">グレードⅠ</td><td>バイエル 44 45 46</td><td rowspan="3">グレードⅥ</td><td>10 16 18</td><td rowspan="2">グレードⅨ</td><td>ソナタ 12 6 2 3-3</td></tr><tr><td>48 51 52 53</td><td>ブルグミュラー 15</td><td>9 7 13</td></tr><tr><td>54 55 57 60</td><td>ソナチネ Ⅱ-10-1 Ⅰ-7-1</td><td rowspan="4">グレードⅩ</td><td>ハイドンのソナタ</td></tr><tr><td rowspan="3">グレードⅡ</td><td>バイエル 61 62</td><td rowspan="3">グレードⅦ</td><td>Ⅰ-7-3</td><td>モーツァルトのソナタ</td></tr><tr><td>ハ長調音階 66 68 69</td><td>ブルグミュラー 12 23 20</td><td>ベートーヴェンのソナタ</td></tr><tr><td>ト長調音階 70 71 59</td><td>ブルグミュラー 14 25</td><td>ロマン派の作品</td></tr><tr><td rowspan="3">グレードⅢ</td><td>72 73</td><td rowspan="3"></td><td>ソナチネ Ⅰ-8-1 Ⅱ-13-1</td><td rowspan="3"></td><td>近現代の作品</td></tr><tr><td>バイエル 74 二長調音階</td><td>Ⅱ-13-2 Ⅰ-4-1 Ⅰ-1-1</td><td></td></tr><tr><td>75 Ⅰ長調音階 79</td><td>Ⅱ-11-1 Ⅰ-17-1 Ⅰ-17-2</td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">グレードⅣ</td><td>84 85 86</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>バイエル 78 99 88</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>89 90 80 81</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>82 98</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				初 級		中 級		上 級		スタートグレード	バイエル 15 16 18	グレードⅤ	バイエル 104 100 102	グレードⅧ	Ⅰ-6-1 Ⅱ-4-1 Ⅱ-14-1	21 24 26	103 105 106	Ⅰ-10-1 Ⅰ-9-1 Ⅰ-12-1	29 38 39	ブルグミュラー 2 3 5 7	Ⅱ-3-1	グレードⅠ	バイエル 44 45 46	グレードⅥ	10 16 18	グレードⅨ	ソナタ 12 6 2 3-3	48 51 52 53	ブルグミュラー 15	9 7 13	54 55 57 60	ソナチネ Ⅱ-10-1 Ⅰ-7-1	グレードⅩ	ハイドンのソナタ	グレードⅡ	バイエル 61 62	グレードⅦ	Ⅰ-7-3	モーツァルトのソナタ	ハ長調音階 66 68 69	ブルグミュラー 12 23 20	ベートーヴェンのソナタ	ト長調音階 70 71 59	ブルグミュラー 14 25	ロマン派の作品	グレードⅢ	72 73		ソナチネ Ⅰ-8-1 Ⅱ-13-1		近現代の作品	バイエル 74 二長調音階	Ⅱ-13-2 Ⅰ-4-1 Ⅰ-1-1		75 Ⅰ長調音階 79	Ⅱ-11-1 Ⅰ-17-1 Ⅰ-17-2		グレードⅣ	84 85 86					バイエル 78 99 88					89 90 80 81						82 98				
初 級		中 級		上 級																																																																											
スタートグレード	バイエル 15 16 18	グレードⅤ	バイエル 104 100 102	グレードⅧ	Ⅰ-6-1 Ⅱ-4-1 Ⅱ-14-1																																																																										
	21 24 26		103 105 106		Ⅰ-10-1 Ⅰ-9-1 Ⅰ-12-1																																																																										
	29 38 39		ブルグミュラー 2 3 5 7		Ⅱ-3-1																																																																										
グレードⅠ	バイエル 44 45 46	グレードⅥ	10 16 18	グレードⅨ	ソナタ 12 6 2 3-3																																																																										
	48 51 52 53		ブルグミュラー 15		9 7 13																																																																										
	54 55 57 60		ソナチネ Ⅱ-10-1 Ⅰ-7-1	グレードⅩ	ハイドンのソナタ																																																																										
グレードⅡ	バイエル 61 62	グレードⅦ	Ⅰ-7-3		モーツァルトのソナタ																																																																										
	ハ長調音階 66 68 69		ブルグミュラー 12 23 20		ベートーヴェンのソナタ																																																																										
	ト長調音階 70 71 59		ブルグミュラー 14 25		ロマン派の作品																																																																										
グレードⅢ	72 73		ソナチネ Ⅰ-8-1 Ⅱ-13-1		近現代の作品																																																																										
	バイエル 74 二長調音階		Ⅱ-13-2 Ⅰ-4-1 Ⅰ-1-1																																																																												
	75 Ⅰ長調音階 79		Ⅱ-11-1 Ⅰ-17-1 Ⅰ-17-2																																																																												
グレードⅣ	84 85 86																																																																														
	バイエル 78 99 88																																																																														
	89 90 80 81																																																																														
	82 98																																																																														
授業計画 初級グレード【グレードⅠ～グレードⅣ】では、楽譜の読み方や運指のトレーニングを学び、保育で用いる音楽にたくさん触れることで、音楽表現の基礎作りを行う。慣れることを積み重ねることで、自信につなげていく。 中級グレード【グレードⅤ～Ⅶ】では、基礎作りで得た技術をさまざまな作品の中で使うことで、一層幅広い表現を学ぶ。音読のスピードを上げ、演奏技術の向上につなげる。一つの作品を仕上げることの難しさを知ること、達成感を得る喜びを感じ取れることを目標とする。 上級グレード【グレードⅧ～Ⅹ】では、更に高度な表現を学ぶ。作品の分析を含め、保育現場で使う教材を見る知識を深める。大きな作品に取り組むことで集中して聴く作業を緻密にし、豊かな表現力を培う。																																																																															
テキスト	バイエル教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム、ソナタアルバムその他																																																																														
参考書・参考資料等	必要に応じて進度に合った作品の楽譜を配布する。																																																																														
学生に対する評価	実技試験（60％）・授業内演習（40％）を総合して評価する。																																																																														
授業時間外の学修（準備・復習）	授業前後に、予習・復習をする。																																																																														

授業科目名	音楽器楽Ⅱ	科目区分	教職・保育に関する科目																																	
担当教員名	遠藤 桂子・遠藤 康子 村上ひろみ・上野かおり	施行規則に定める 科目区分又は事項等																																		
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（60時間）																																	
開講学年・時期	2年生・後期	授業方法・担当形態	演習・複数																																	
授業の概要 個人レッスンでバイエル・ブルグミュラー・ソナチネなどの教則本を演習する。グレード表の進度別に年2回、実技試験を行う。																																				
授業のテーマ及び到達目標 保育の現場に必要な、多様な音楽に対応できるための適切なピアノ奏法を修得する。未経験者・初心者について基礎から演習を始める。経験者は、より一層の表現・解釈を修得し音楽的な技術の向上を図る。																																				
<table><tr><th colspan="2">初 級</th><th colspan="2">中 級</th><th colspan="2">上 級</th></tr><tr><td rowspan="3">スタートグレード</td><td>バイエル 15 16 18 21 24 26 29 38 39</td><td rowspan="3">グレードⅤ</td><td>バイエル 104 100 102 103 105 106 ブルグミュラー 2 3 5 7</td><td rowspan="2">グレードⅧ</td><td>Ⅰ-6-1 Ⅱ-4-1 Ⅱ-14-1 Ⅰ-10-1 Ⅰ-9-1 Ⅰ-12-1 Ⅱ-3-1</td></tr><tr><td>10 16 18</td><td>グレードⅨ</td><td>ソナタ 12 6 2 3-3 9 7 13</td></tr><tr><td>グレードⅠ</td><td>バイエル 44 45 46 48 51 52 53 54 55 57 60</td><td rowspan="3">グレードⅥ</td><td>ブルグミュラー 15 ソナチネ Ⅱ-10-1 Ⅰ-7-1 Ⅰ-7-3</td><td rowspan="5">グレードⅩ</td><td>ハイドンのソナタ モーツァルトのソナタ ベートーヴェンのソナタ ロマン派の作品 近現代の作品</td></tr><tr><td rowspan="3">グレードⅡ</td><td>バイエル 61 62 ハ長調音階 66 68 69 ト長調音階 70 71 59 72 73</td><td rowspan="3">グレードⅦ</td><td>ブルグミュラー 14 25 ソナチネ Ⅰ-8-1 Ⅱ-13-1 Ⅱ-13-2 Ⅰ-4-1 Ⅰ-1-1 Ⅱ-11-1 Ⅰ-17-1 Ⅰ-17-2</td></tr><tr><td>グレードⅢ</td><td>バイエル 74 二長調音階 75 Ⅰ長調音階 79 84 85 86</td><td></td><td></td></tr><tr><td>グレードⅣ</td><td>バイエル 78 99 88 89 90 80 81 82 98</td><td></td><td></td></tr></table>				初 級		中 級		上 級		スタートグレード	バイエル 15 16 18 21 24 26 29 38 39	グレードⅤ	バイエル 104 100 102 103 105 106 ブルグミュラー 2 3 5 7	グレードⅧ	Ⅰ-6-1 Ⅱ-4-1 Ⅱ-14-1 Ⅰ-10-1 Ⅰ-9-1 Ⅰ-12-1 Ⅱ-3-1	10 16 18	グレードⅨ	ソナタ 12 6 2 3-3 9 7 13	グレードⅠ	バイエル 44 45 46 48 51 52 53 54 55 57 60	グレードⅥ	ブルグミュラー 15 ソナチネ Ⅱ-10-1 Ⅰ-7-1 Ⅰ-7-3	グレードⅩ	ハイドンのソナタ モーツァルトのソナタ ベートーヴェンのソナタ ロマン派の作品 近現代の作品	グレードⅡ	バイエル 61 62 ハ長調音階 66 68 69 ト長調音階 70 71 59 72 73	グレードⅦ	ブルグミュラー 14 25 ソナチネ Ⅰ-8-1 Ⅱ-13-1 Ⅱ-13-2 Ⅰ-4-1 Ⅰ-1-1 Ⅱ-11-1 Ⅰ-17-1 Ⅰ-17-2	グレードⅢ	バイエル 74 二長調音階 75 Ⅰ長調音階 79 84 85 86			グレードⅣ	バイエル 78 99 88 89 90 80 81 82 98		
初 級		中 級		上 級																																
スタートグレード	バイエル 15 16 18 21 24 26 29 38 39	グレードⅤ	バイエル 104 100 102 103 105 106 ブルグミュラー 2 3 5 7	グレードⅧ	Ⅰ-6-1 Ⅱ-4-1 Ⅱ-14-1 Ⅰ-10-1 Ⅰ-9-1 Ⅰ-12-1 Ⅱ-3-1																															
	10 16 18		グレードⅨ		ソナタ 12 6 2 3-3 9 7 13																															
	グレードⅠ		バイエル 44 45 46 48 51 52 53 54 55 57 60	グレードⅥ	ブルグミュラー 15 ソナチネ Ⅱ-10-1 Ⅰ-7-1 Ⅰ-7-3	グレードⅩ	ハイドンのソナタ モーツァルトのソナタ ベートーヴェンのソナタ ロマン派の作品 近現代の作品																													
グレードⅡ	バイエル 61 62 ハ長調音階 66 68 69 ト長調音階 70 71 59 72 73	グレードⅦ	ブルグミュラー 14 25 ソナチネ Ⅰ-8-1 Ⅱ-13-1 Ⅱ-13-2 Ⅰ-4-1 Ⅰ-1-1 Ⅱ-11-1 Ⅰ-17-1 Ⅰ-17-2																																	
	グレードⅢ		バイエル 74 二長調音階 75 Ⅰ長調音階 79 84 85 86																																	
	グレードⅣ		バイエル 78 99 88 89 90 80 81 82 98																																	
授業計画 初級グレード【グレードⅠ～グレードⅣ】では、楽譜の読み方や運指のトレーニングを学び、保育で用いる音楽にたくさん触れることで、音楽表現の基礎作りを行う。慣れることを積み重ねることで、自信につなげていく。 中級グレード【グレードⅤ～Ⅶ】では、基礎作りで得た技術をさまざまな作品の中で使うことで、一層幅広い表現を学ぶ。音読のスピードを上げ、演奏技術の向上につなげる。一つの作品を仕上げることの難しさを知ること、達成感を得る喜びを感じ取れることを目標とする。 上級グレード【グレードⅧ～Ⅹ】では、更に高度な表現を学ぶ。作品の分析を含め、保育現場で使う教材を見る知識を深める。大きな作品に取り組むことで集中して聴く作業を緻密にし、豊かな表現力を培う。																																				
テキスト	バイエル教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム、ソナタアルバム その他																																			
参考書・ 参考資料等	必要に応じて進度に合った作品の楽譜を配布する。																																			
学生に対する 評価	実技試験（60％）・授業内演習（40％）を総合して評価する。																																			
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後に、予習・復習をする。																																			

授業科目名	こどもと造形表現Ⅲ	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	谷崎 三保子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	選択科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 素材やテーマ、表現方法に関する知識と経験を増やし、柔軟な思考と対応力を養う。 こどもにとっての造形表現の意義及び可能性を見つける。身に付けた知識や技術を、指導力につなげる。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 用具や素材の扱い方の基本と応用を学び、様々なテーマに取り組むことにより、知識と表現の幅を広げ、造形表現への自信と意欲を高める。 共同制作を行うことにより、自分と他者の個性や違いを認め、工夫や尊重をしながら、これまで身につけた知識を実践に生かす方法を探る。			
<b>授業計画</b> 第1回：人物画の基本 クロッキー「紙人形」 第2回：パス技法の応用（混色・スクラッチ・擦り絵・ステンシル）「春」 第3回：紙工作の技法（折る・曲げる・破る・切る・貼る）「お弁当」 第4回：絵の具技法の応用1「鯉のぼり」 第5回：絵の具技法の応用2「雨や雪の表現」 第6回：素材研究1（毛糸・箱）「写真ホルダー」 第7回：素材研究2（カラーポリ袋）「動物のパペット」 第8回：素材研究3（傘袋）「キャンディレイ」 第9回：素材研究4（ボール紙）「はばたく鳥のモビール」 第10回：素材研究5（新聞紙・お花紙・スズランテープ）「かぶりもの」 第11回：講義「こどもの造形のテーマ設定について」 第12回：グループによる壁面制作① 計画 第13回：グループによる壁面制作② 実制作 第14回：グループによる壁面制作③ 完成・発表・鑑賞 第15回：季節の自然の写生 <b>定期試験</b>			
テキスト	こども・先輩の作品例 プリント		
参考書・ 参考資料等	「保育に役立つ絵画遊び技法百科」 富山典子・岩本克子 共著 「幼児造形の基礎」 樋口一成 著		
学生に対する 評価	定期試験（80％）と授業内での小レポート（1～2回）（20％）により、総合的に評価する。		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業時前の準備の対応を学習する。授業後に質問を受けている。		

授業科目名	こどもと造形表現Ⅳ	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	谷崎 三保子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	選択科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 色々な材料、用具を使いこなして、様々なイメージを自由に表現することを可能とする。 共同作業が出来るように計画表作り、役割分担など、役目を理解できるようにする。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 用具や材料に創意工夫を加えることによって、表現の範囲が広がり、 更に造形表現への自信と意欲を高めていく。			
<b>授業計画</b> 第1回： 図画工作の授業としての2年間の振り返りとまとめ 第2回： 描画と版画の関連性について 第3回： 紙版画 スタンピングの基礎とデザイン性について 第4回： 紙版画とローラー インクの実践① 第5回： 紙版画とローラー インクの実践② 第6回： 共同作品の課題と特性についてテーマを提出する 第7回： 共同作品の計画性について（3～4人のグループ各） 第8回： 話し合いと役割について 第9回： 制作に対応する準備（材料の用意 接着について） 第10回： グループの各「テーマ」に基づいて 作業① 第11回： グループの各「テーマ」に基づいて 作業② 第12回： グループの各「テーマ」に基づいて 作業③ 第13回： グループの各「テーマ」に基づいて 作業④ 第14回： グループの各「テーマ」に基づいて 作業⑤ 第15回： 完成により達成感と反省 <b>定期試験</b>			
テキスト	卒業生の作品等		
参考書・ 参考資料等	幼児作品等（また、その写真等）		
学生に対する 評価	定期試験（70%）、作品に取り組む姿勢・提出作品（30%）を総合して評価する。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業時前の準備の対応を学習する。授業後に質問を受けている。		

授業科目名	幼児体育Ⅱ	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	近森 卓 小林 浩之・野中 耕次	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	選択科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・後期	授業方法・担当形態	演習・複数
<b>授業の概要</b> 保育現場の事例を盛り込み、幼児体育の必要性を理解し、年齢による成長と発達段階による種目を学び、具体的に指導していける内容とする。「幼児体育Ⅱ」は幼児体育の内容を実践し、補助や段階的指導法を学んでいく場とする。子どもの目線に立ち、「あそび」の根本を忘れず、楽しめるような方法を具体的に行う。健康面に関わる種目も学ぶ。スライド写真も使用する。附属幼稚園遊戯室等使用。保育内容5領域との関連性も学ぶ。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 「幼児体育Ⅰ」で学んだところから更に実際の現場の話を入れ、具体的に実践をイメージしていける内容とする。子どもの目線に立ち、「あそび」の根本を忘れず、楽しめるような方法を各自の発想を生かし実践できるように創意工夫する。また、リズム体操など自由な発想で自分が考えて作りあげていけるようにする。子どもの心身の発達、健康、保育の内容5領域も押さえて指導できるようになる。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション（幼児期の運動あそびの意義と必要性、授業計画の説明、評価など） 第2回：ランニング指導法と身体バランス運動の指導法 第3回：ボールあそびの実践と展開 第4回：徒手体操と鉄棒の指導方法 第5回：手具を使つての運動あそびの実践と展開 第6回：表現あそび組み立て 第7回：パラバルーンの指導方法 第8回：マットあそび・跳び箱・平均台の指導法と補助法 第9回：サーキット運動への展開と考察（身体に安全な指導方法） 第10回：遊具・道具を使用した親子体操・親子競技の実践・考察 第11回：運動会競技の実践・考察 第12回：リズム体操の実践・考察 個人とグループでの創作 第13回：手具など道具を使用 リズム体操の実践・考察 個人とグループでの創作 第14回：保育園実地体験授業 園児による駅伝行事参加 第15回：まとめ 幼児の年齢（月齢差を考慮した）様々な種目を考察し組み立て、発表 <b>定期試験</b>			
テキスト	「幼児期運動指針」文部科学省「幼児体育—理論と実践—（第4版）」 2014 日本幼児体育学会（編） 前橋 明 他（著）		
参考書・ 参考資料等	講義中に適宜紹介していく		
学生に対する 評価	定期試験（80％）と授業内での小レポート（1～2回）（20％）		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業前の準備の安全性の対応を学習し、授業終了後に質問などを対応する。		

授業科目名	こどもと人間関係	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	野崎 美香子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 人間関係
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位 (30時間)
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容をふまえた上で、乳幼児期における人とかかわりの育ちについて概説する。また乳幼児の人とかかわる力を育むとはどのようなものかを理解し、保育実践のための基礎的な学びが深められるようにする。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・領域「人間関係」のねらいと内容について理解し、乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人とかかわりの重要性を理解し、保育者の適切な援助について考えられるようになる。 ・子どもの発達段階や特性に応じた人間関係のあり方を理解し、領域「人間関係」の指導の基盤となる知識を身に付ける。 ・保育内容「人間関係」を理解することを通して保育者の役割を自覚し、学びを自らの実践に取り入れることを目指す。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 乳幼児期の人間関係で重要なこと 第2回：人とかかわりの発達 ー発達理論を軸にして 0歳児のかかわりの特徴と援助ー 第3回：人とかかわりの発達 ー発達理論を軸にして 1・2歳児のかかわりの特徴と援助ー 第4回：人とかかわりの発達 ー発達理論を軸にして 3歳児のかかわりの特徴と援助1ー 第5回：製作「名札」ー関わりのきっかけを作ろうー 第6回：保育の基本と「人とかかわり」について ー保育者との出会い・信頼関係を築くかかわりー 第7回：人とかかわりの発達 ー発達理論を軸にして 3歳児のかかわりの特徴と援助2ー 第8回：人とかかわりの発達 ー発達理論を軸にして 4・5歳児のかかわりの特徴と援助ー （「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と小学校との接続を含む） 第9回：遊びの中で育つ人とかかわり ー友だち関係の広がりを援助する（3歳児動画）ー ー個を中心に据えた人間関係論ー 第10回：保育内容の捉え方と領域「人間関係」 ー領域「人間関係」の法令の理解ー 第11回：人間関係と環境 ー人とかかわりを育てる保育環境ー 第12回：人とかかわりを育てる保育実践 ー人間関係における問題行動の理解と援助ー ー発達の体験をとらえる 確認テスト 第13回：人とかかわりをみる視点 ー感謝の気持ちを育てる保育ー 確認テスト解答解説 第14回：遊びの中で育つ人とかかわり ー友だち関係の広がりを援助する（4歳児）ー 第15回：まとめ <b>定期試験</b>			
テキスト	「知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・人間関係」編著 三宅茂夫 みらい 2022年		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）		
学生に対する評価	定期試験（70%）提出物・ワークシートなど（20%）製作物提出（10%） 復習は講義内容と併せて、テキスト又は配布資料を読み込み、理解を深め、学んだ事を整理すること。		
授業時間外の学修（準備・復習）	疑問に思った事や分からない事は積極的に講義内で確認すること。 また、理解不足の者は講義終了にも対応する。		

授業科目名	こどもと環境	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	河合 美保	施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 環境
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位 (30時間)
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> ・子どもを取り巻く環境と子どもとのかかわりについて、理論・実践の双方の観点から多面的に学び、感性、知識、技能を身につける。 ・子どもが主体的に環境にかかわることの意味を考え、保育者の援助法や役割について実践を通して、具体的に学ぶ。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・子どもを囲む環境とその課題や子どもの育ちにおいて環境がどのような意味を持つのか理解する。 ・子どもを囲む環境の変化への対応を理解する。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション（授業のねらい、到達目標、評価等について） 第2回：保育・幼児教育の基本 第3回：「環境」とはなんだろう① 第4回：「環境」とはなんだろう② 第5回：子どもの発達と環境 第6回：子どもを取り巻く環境と課題① ～自然・季節・身近な動植物～ 第7回：子どもを取り巻く環境と課題② ～知識基盤社会とESD～ 第8回：遊びを豊かにする保育環境① 第9回：遊びを豊かにする保育環境② 第10回：地球環境問題を子どもの視線から考える 第11回：子どもが興味を持つ文字・標識等を地域から学ぶ 第12回：子どもにとっての季節の意味を考える ～日常生活における自然の変化～ 第13回：これからの保育内容・環境① 第14回：これからの保育内容・環境② 第15回：まとめ <b>定期試験</b>			
テキスト	「子どもの姿からはじめる 領域・環境」 秋田喜代美 三宅茂夫（監） （株）みらい社		
参考書・ 参考資料等	「幼稚園教育要領」 「保育所保育指針」 「幼保連携型こども園教育・保育要領」		
学生に対する 評価	定期試験(70%) レポートや課題提出(30%)		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後に60分程度、学習する。 授業前・授業後に質問を受ける。		



授業科目名	こどもと言葉	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	森井 弘子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 言葉
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位 (30時間)
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」の「言葉」のねらい、内容を徹底習得する。「こどもと言葉」の関連性、乳幼児の言葉の発達、事例を学習しながら、言葉育ての具体性を追求する。特に言葉育ての児童文化財を活用した具体的実践にもチャレンジし、演習方式の双方向授業のアクティブラーニングを取り入れたものとする。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ことばはコミュニケーションの一手段であり、子どもが育つ中で人間形成における重要な位置をしめ、乳幼児期の言葉獲得は大切な意味をもつ。本教科では「こども」と「言葉」の関連性の基本を軸に、具体的事例を学習しながら、2年での「言葉指導法」の実践へとつなぐ。まず自身の語彙力を含めた「言葉」への認識や言葉の基礎への習得、「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」の「言葉」のねらい、内容を徹底マスターのうえ、乳幼児期の言葉の発達もおさえ、特に身近な絵本の読み語り実践を通じて自らの学修を率先して行う。また保育用語や言葉の周辺としての多文化理解など基礎的な保育や教育の概論にも触れながら、意識力の向上も目指す。			
<b>授業計画</b> 第1回：言葉の役割・機能・保育内容「言葉」―幼稚園教育要領・保育所保育指針 ねらい～内容取扱いまで 第2回：こどもの言葉の発達 言葉の獲得 乳児期・幼児期 第3回：こどもと言葉 事例から学ぶ 話しかけ 保育者としての言葉がけ インリアルなど 第4回：言葉の獲得 最初の一步 子どもとわらべ歌 わらべうた 概論・特色・種類・具体的作品 第5回：保育とわらべ歌 身体と言葉 伝承遊びのわらべ歌 ～ 現代手遊びまで 実践で学ぶ 第6回：保育とことばと児童文化財 こどもと絵本 ① 概説 絵本【概論・種類・特色・スキル】 第7回：保育とことばと児童文化財 乳幼児発達と絵本② 赤ちゃん絵本とブックスタート 【乳幼児絵本を中心に】 第8回：文化財を用いた こどもと言葉 具体的実践 絵本発表を通して学びあう ① 第9回：文化財を用いた こどもと言葉 具体的実践 絵本発表を通して学びあう ② 第10回：文化財を用いた こどもと言葉 絵本からのさらなる発展の考察 【8回9回発表予備】 第11回：保育と言葉 常識基礎マナー 保育用語をおさえよう 要領、指針、発達 振り返り 第12回：こどもと言葉―現代的視点 感情とことば リテラシー バリアフリー、SDG's ほか 第13回：こどもと言葉と行事 クリスマスと絵本 絵本ブックトークと設定保育企画プレゼン 第14回：言葉の周辺① 環境―多文化・多国籍のこどもと言葉 第15回：言葉の周辺② 言葉の障碍 生理学的観点より 種類、配慮 全般を振り返って <b>定期試験</b>			
テキスト	新時代の保育双書『保育内容 ことば』第3版 赤羽根有里子・鈴木穂波編 みらい社		
参考書・ 参考資料等	藪中ら編『新版 保育内容・言葉』（教育出版）、徳安・堀 編『保育内容・言葉』第四版（青踏社）『子どもと言葉』岡本夏木（岩波新書）文科省『幼稚園教育要領解説』、厚生省『保育所保育指針 田上貞一郎・高荒正子『保育内容指導法―言葉―』（双文社出版）		
学生に対する 評価	定期テスト（70％）小テスト（10％）発表（10％）提出物（10％）など総合評価する。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後に、予習・復習を行う。		

授業科目名	保育内容指導法総論	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	杉本 万貴子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 幼稚園教育要領。保育所保育指針の各領域におけるねらい及び内容の関連を学び、乳幼児期の発達を踏まえ幼稚園・保育所教育の方法特質を理解する。また、指導計画の作成方法の理解。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 教育・保育の理念や基本を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針における5領域のねらい及び内容の関連について実践的に学び、指導計画を作成する能力を見につける。			
<b>授業計画</b> <b>第1回：オリエンテーション</b> 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・保育要領」に見る保育方法（5領域のねらいと内容） <b>第2回：乳幼児期の発達と子ども理解にもとづいた保育方法と評価</b> <b>第3回：乳幼児期にふさわしい生活と望ましい生活</b> <b>第4回：保育形態による長所と短所</b> <b>第5回：「養護と教育が一体化となった」保育の方法</b> <b>第6回：環境構成を通しての子どもの学びと援助</b> <b>第7回：乳幼児の遊びの捉え方や援助方法</b> <b>第8回：一人一人の「個」と集団を活かした保育の方法</b> <b>第9回：0・1・2歳児の発達に応じた保育方法</b> <b>第10回：3・4・5歳児の発達に応じた保育方法</b> <b>第11回：保育計画の実践（教育課程、長期計画、短期計画、行事）</b> <b>第12回：教育における家庭や地域と連携、協力のあり方</b> <b>第13回：小学校との接続</b> <b>第14回：インクルーシブな保育の実現</b> <b>第15回：これからの保育内容指導法の課題 全体のまとめ</b> <b>定期試験</b>			
テキスト	新しい保育講座「保育方法・指導法」 （大豆生田啓友・渡邊英則 編著 ミネルヴァ書房）		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
学生に対する評価	定期試験（70％）・実例に基づきグループワーク発表（30％）		
授業時間外の学修（準備・復習）	授業前・授業後に質問を受ける。		

授業科目名	保育内容総論	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	伊藤 佐陽子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 幼児期に育みたい資質、能力とは何かを理解し、指針・要領等に示されたねらい及び内容について、専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即した過程を踏まえて、具体的な実践場面を想定し、主体的・対話的で深い学びを実現する保育を構想し、実施する力を身に付ける。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・テーマ 我が国の保育内容の基本を総合的に学び、主体的・対話的学びが実現するための保育内容のあり方を考える。 ・到達目標 園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な幼児の姿と関連づけながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身につける。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 日本における幼児教育とは 第2回：保育内容の総合的な把握 第3回：保育内容の実践における専門性 第4回：保育内容の領域の位置づけ 第5回：保育内容の領域のねらい及び内容について 第6回：幼児期の発達過程と保育内容 第7回：幼児教育と初等教育 第8回：「遊び」を通した総合的保育 第9回：保育内容と指導上の留意点 第10回：五領域と教材の活用方法 第11回：五領域と情報機器の活用方法 第12回：指導案の構成を理解する 第13回：模擬保育の実践 第14回：省察の意義と保育の評価 第15回：保育実践の動向と構想の向上について <b>定期試験</b>			
テキスト	新基本保育シリーズ14 保育内容総論 中央法規		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
学生に対する評価	定期試験評価（70％）に加え、課題の作成と提出（30％）などを総合して評価する。		
授業時間外の学修（準備・復習）	授業前後で課題を作成して、提出する		

授業科目名	健康指導法	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	黒瀬 久美子・野中 耕次	施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・後期	授業方法・担当形態	演習・複数
<b>授業の概要</b> 子どもの健康のとらえ方及び成長発達に応じた指導について理解を深め、習得し実践に結びつけるための講義・演習をおこなう。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 子ども自身が自ら健康を身に着けるための指導ができる事を目的に以下の目標達成を目指す。 ①めまぐるしく変わる子どもの健康問題を把握理解し、保育・教育場面で対応できる。 ②成長発達に応じた指導・支援方法およびそのための教材・資料を考え実施できる。 ③他者と共同して生活の中で健康に関する企画・運営・展開することができる。			
<b>授業計画</b> 第1回：健康の目指すものとは・・・WHOの健康・保育所保育指針・幼稚園教育要領 第2回：生活習慣と健康①子ども期前半10年の意味と役割 第3回：生活習慣と健康②子ども期後半15年の意味と役割 第4回：ライフサイクルにおける指導・支援①伝える・伝わるアプローチと教材の工夫 第5回：ライフサイクルにおける指導・支援②子ども自ら考え・動くための指導支援方法 第6回：生活習慣とあそびの中の指導①健康を獲得するためのステップ 第7回：生活習慣とあそびの中の指導②スキンシップ・コミュニケーション体験を通して 第8回：虐待予防～避けたいかわり・いのちの安全教育～ 第9回：自己肯定感を高めるために・・・ 第10回：グローバル・コミュニケーション力の習得①発想力・論理力 第11回：グローバル・コミュニケーション力の習得②表現力・批判的思考力 第12回：それって、保育の常識ですか？～保育あるある!!を考える～ 第13回：家庭との連携①親のつぶやきをとらえる 第14回：家庭との連携②個人懇談・クラス懇談・掲示板・おたよりを考える 第15回：問題が起きたとき・思うようにいかないとき <b>定期試験</b>			
テキスト	黒瀬久美子著「楽しく セクシュアリティ支援のすすめ」ハートブレイク発行		
参考書・ 参考資料等	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」		
学生に対する 評価	定期試験(60%) グループワーク参加・発表態度及び提出物など(40%)		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後に、予習・復習をする。		

授業科目名	人間関係指導法	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	野崎 美香子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容をふまえた上で、乳幼児期における人とかかわりの育ちについて概説する。また、保育における援助や具体的な指導方法について学びが深められるように、演習課題やグループワークの取り組みをする。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ・乳幼児の人とかかわる力を育てる為の保育者の適切な援助や方法について、説明できるように学んだ知識や自分の考えをまとめられるようになる。 ・幼児の特徴を踏まえた教材研究の重要性を理解し、主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につける。 ・グループワークを通して協同する活動を学ぶ。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション こんな保育者になりたい！ 第2回：遊びの中で育つ人との関わり（自己抑制・自己抑制・思いやり） 確認テスト 第3回：確認テスト（第2回目） 解答解説。 乳幼児と人間関係における現代的課題について 第4回：人とかかわりをみる視点（1） ー必要な態度・信頼関係・いざこざ・トラブル・葛藤を乗り越える経験 第5回：人とかかわりをみる視点（2） ルール・規範意識を育てる援助 ルール、約束、秩序を守る気持ちを育てる保育 確認テスト 第6回：確認テスト（第5回目） 解答解説 人とかかわりを見る視点（2） ー道徳的態度の育ち・保育の場の両義性についてー 第7回：多様な保育ニーズ ー地域子育て支援を担う保育士・悩む親を支える役割ー ー保育現場の国際化の問題（アメリカの多文化教育の試みの紹介）ー 第8回：領域「人間関係」を中心とした指導計画と実践事例の読み解きと関わりの記録方法 第9回：保育内容の捉え方と「人間関係」（指導案の構成） 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善） 第10回～第14回：人間関係を育む活動のアイディア（グループワーク）ICTの活用 ー領域「人間関係」の特性および幼児の体験との関連を考慮した教材の研究と発表ー 第15回：人とかかわりに関する保育者の役割と援助 授業の振り返り・まとめ <b>定期試験</b>			
テキスト	「知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・人間関係」編著 三宅茂夫 みらい 2022 年		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成29 年3 月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29 年3 月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省） 保育所保育指針（平成29 年3 月告示 厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）		
学生に対する評価	定期試験（60％） レポート課題（20％） グループワーク発表内容（20％）		
授業時間外の学修（準備・復習）	疑問に思った事や分からない事は積極的に講義内で確認すること。また、理解不足の場合は、講義終了後にも対応する。		

授業科目名	環境指導法	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	河合 美保	施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 保育における環境を通して行うという前提に基づき、子どもが環境をどの様に捉え、関り学んでいくのかを考える。子どもが主体的な遊び中での環境、それらを促す保育者の役割について様々な面から考察し、グループ等で討論を繰り返しながら子どもと環境の関りを考えていく。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 乳幼児を取り巻く環境やその課題、乳幼児と環境の関わりについて幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点及び配慮事項について具体的に理解する。その上で、乳幼児の発達に即して領域「環境」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構想と指導方法を身に付ける。			
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス及び子どもと環境について 第2回：保育内容・領域「環境」について 第3回：保育内容・領域「環境」の展開について 第4回：保育の過程について 第5回：ものとのかかわりの実践について 第6回：自然とのかかわりの実践について① 第7回：自然とのかかわりの実践について② 第8回：数量・数量とのかかわりの実践について 第9回：標識・文字とのかかわりの実践について 第10回：身近な情報とのかかわりの実践について 第11回：身近な施設・地域・さまざまな文化とのかかわりの実践について 第12回：行事のかかわりの実践について 第13回：遊びを通した総合的な指導の展開について 第14回：小学校との連携・接続の実践について 第15回：領域「環境」にかかわる現代的課題について <b>定期試験</b>			
テキスト	実践例から学びを深める保育内容 領域「環境指導法」わかば社 小櫃 智子 他著		
参考書・ 参考資料等	自然との関わり実践に関するプリント配布		
学生に対する 評価	定期試験（70％）課題提出・小テスト（30％）		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後60分程度の予習・復習を行うこと		

授業科目名	言葉指導法	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	森井 弘子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育内容「言葉」としてのねらい・内容の理解・発展を主軸に1年の「こどもと言葉」の授業のさらなる発展、その具体的指導活動などを学ぶ。この時期の言語発達を知ると共に豊かな言葉育てのための環境整備、その言葉への興味発展を支えるわらべ歌言葉遊び、絵本、紙芝居素話などの具体的言語教材をその言語指導の実際として習得し、実践する。授業方法はゼミ方式の双方向アクティブラーニングとする。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・領域「言葉」について理解し、その指導法を習得する。 ・言葉の発達を理解し、教員としての適切な助言・指導を考える。 ・言葉文化の教材を研究し、その実践を通して、幼児期の言葉を取りまく環境の重要性を認識する。			
<b>授業計画</b> 第1回：言葉指導法とは「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」ねらい～内容取扱い 指導法の重要性の考察 第2回：文化財活用の指導 子どもと歌 わらべうた「マザーグース（英語圏伝承童謡）」修得と保育へのとり入れ 第3回：文化財活用の指導 子どもと歌 創作童謡～現代童謡 詩の魅力 ことばの意味とリズム性の考察 第4回：言葉育て「言葉遊び」をフルに 教材 種類・歌・絵本 幼児の姿 具体的実践・発展 第5回：言葉指導の具体 絵本から幼年童話へ 童話とは？ 幼年童話を中心に（概説、歴史。具体的作品） 第6回：言葉育ての文化財 具体性 紙芝居 概論 （特性・種類・スキル） 第7回：言葉育ての文化財「紙芝居」 その活用発展 具体的実践 紙芝居を上演してみよう 第8回：言葉育ての文化財「おはなし」について（種類・スキルなど）伝承文学 名作 概説 特色ほか 第9回：子どもの言語発達を促す保育実践 第10回：保育と言葉 保育用語 保育者マナー・常識基礎用語（言葉指導 実践発表予備 紙芝居・素話） 第11回：言葉育ての教材 保育の中の言葉指導発展 伝承文学 日本昔話を中心に 調査・発表 第12回：言葉と教育 国語教育へ 言葉と文字 文字指導へ こどもの言葉 リテラシーとコミュニケーション 第13回：模擬保育の発表と評価 第14回：異文化理解、障害をもつ子どもへの配慮や援助 第15回：言葉指導の周辺 多様性 生活環境・社会環境 多文化社会 言葉指導の重要性の再認識。授業振り返り <b>定期試験</b>			
テキスト	新時代の保育双書『保育内容 ことば』第3版 赤羽根有里子・鈴木穂波編 みらい社		
参考書・参考資料等	藪中ら編『新版 保育内容・言葉』（教育出版）、徳安・堀 編『保育内容・言葉』第四版（青踏社）文科省『幼稚園教育要領解説』、厚生省『保育所保育指針』、岡本夏木『子どもとことば』（岩波新書）、田上貞一郎・高荒正子『保育内容指導法一言葉一』（双文社出版）、松岡亨子『ことばの贈りもの』（東京子ども図書館）		
学生に対する評価	定期試験（70％）小テスト（10％）発表（10％）提出物（10％） 準備や制作に積極的姿勢など総合評価する。		
授業時間外の学修（準備・復習）	授業前後に、予習・復習をする。		

授業科目名	表現指導法	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	岡 みゆき・遠藤 桂子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された「表現」領域のねらい及び内容について理解する。 2. 子どもたちが身体を使って豊かな表現ができるように、保育者としての指導方法・表現方法を身につける。 3. リズム遊び、表現遊びなど、子どもの遊びを豊かにする身体表現の基礎的知識と実践力を身につける。 4. リズム体操・リズムダンスの創作に取り組み、発表会で披露できる実践力を身につける。自己の動作を分析しよりよい表現方法に改善する力も身につける。 *その為、各時間に体づくり運動を取り入れ基礎的な柔軟（ストレッチ）やアイソレーション運動を行う。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された「表現」領域のねらい及び内容について理解するとともに、子どもの多様な経験と身体表現を関連させた遊びを指導・展開でき、その重要性を説明できるようになる。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション(各授業時間でのねらいと進め方や保育内容表現の内容について説明) 第2回：身体表現を重視した手あそび・体あそび1 第3回：身体表現を重視した手あそび・体あそび2 第4回：幼児に行ってもらいたいリズム体操・リズムダンスの基本的な動きの習得1 第5回：幼児に行ってもらいたいリズム体操・リズムダンスの基本的な動きの習得2 第6回：季節にふさわしいリズム体操・リズムダンスを学ぶ1 第7回：季節にふさわしいリズム体操・リズムダンスを学ぶ2 第8回：ふれあいを大切にしたりリズム体操・リズムダンスを学ぶ 第9回：テーマを持った(身体活動量を増やす・柔軟性をつける等)リズム体操・リズムダンスを学ぶ 第10回：子どもたちの主体性を大切にしたり身体表現について学ぶ 第11回：幼児向けリズム体操・リズムダンスの創作1 第12回：幼児向けリズム体操・リズムダンスの創作2 第13回：幼児向けリズム体操・リズムダンスの発表・鑑賞・意見交換 第14回：学生相互で指導者になりロールプレイで創作したりリズム体操・リズムダンスを教え合う 第15回：保育内容（身体表現）のまとめ <b>定期試験</b>			
テキスト	使用しない。随時プリントなどを配布する。		
参考書・参考資料等	参考書などは授業中に随時紹介する。参考資料としてプリントなどを適時配布する。		
学生に対する評価	定期試験（70％）・指導法（受講者の模擬授業）（30％）		
授業時間外の学修（準備・復習）	授業を通じて多くの幼児向けの遊びに触れて理解し、保育現場で表現について楽しんで指導できる力を身につけること。		



授業科目名	保育実践入門	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	杉森 眞理子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 幼稚園では、幼児期にふさわしい生活が展開され、遊びを通した保育が行われる。どのようにして子どもの育ちを支える遊びや生活をつくっていけばよいのか、具体的な保育実践を通して、保育者の役割や保育の内容についての理解を深め、保育者を目指す者としての資的な向上を目指す。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 学生自らが保育に関する体験を積み重ね、保育者としての資質作りに努める。また、グループでの活動を通して、子どもの遊びや保育を知ると同時に、保育計画や環境構成の意味について理解する。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション保育5領域のねらいと内容の関連の理解 第2回：子どもの発達段階に応じた保育実践指導のあり方 第3回：各領域の達成目標と保育のねらいや目標の立て方と保育実践について 第4回：保育室の環境及び壁面構成の実践 第5回：各シアターの制作（紙コップ・ペープサート・腕人形・パネルシアター） 第6回：各シアターの発表と相互評価 第7回：ともに育ちあう保育の視点と方法 第8回：室内での遊びに関する保育指導案の作成と模擬保育（グループワーク） 第9回：保育の計画と方法の原理 ・エプロンシアターの制作 第10回：保育室の環境構成 ・エプロンシアターの制作 第11回：よりよい保育に向かう評価 ・エプロンシアター制作 第12回：身近素材を活用した遊び（ペットボトル・牛乳パック）の意義について 第13回：エプロンシアターの発表と評価①（グループワーク） 第14回：エプロンシアターの発表と評価②（グループワーク） 第15回：授業のまとめ <b>定期試験</b>			
テキスト	「保育の計画と方法」（同文書院）		
参考書・ 参考資料等	幼稚園教育要領及び解説（平成29年3月31日告示 文部科学省） 保育所保育指針及び解説（平成29年3月31日告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説（平成29年3月31日告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） その他必要に応じて適宜指示・配布する		
学生に対する 評価	定期試験（70％）及び、小試験、課題、レポート（30％） 保育教材の作成及びグループワークにおける積極性を求める。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業課題等の作成 授業の前後で、テキストを予習・復習		

授業科目名	保育・教職概論	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	大槻 雅俊	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む)
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位 (30時間)
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 保育者（幼稚園教諭や保育士）の使命、職務並びに業務そして必要な基礎的な資質、専門性について学ぶ。 保育者が自覚と責任そして自信をもって保育実践に取り組むための「保育の本質」について、我が国の幼児教育の変遷、幼児教育思想・保育観、幼稚園・保育所の法的制度、幼児教育に関する免許・資格、保育者の人間性、保育者としての専門性及び職務遂行能力などについて学習していく。幼児教育に関する今日的な課題について取り上げ具体的な事例をとおして授業を進める。授業は講義以外に適宜グループワークなどを取り入れる。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 保育者としての実践的内容に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、保育者としての自覚を養うことができるようにする。			
<b>授業計画</b> 第1回：保育者になるということ 第2回：幼稚園教諭と保育士の免許・資格 第3回：保育者の1日－午前の仕事－ 第4回：保育者の1日－午後の仕事－ 第5回：子どもをわかるということ 第6回：子どもと共に活動する－幼稚園の場合－ 第7回：子どもと共に活動する－保育所の場合－ 第8回：豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事－絵本と保育－ 第9回：文化や自然との出会いと保育－生物の世話－ 第10回：保護者や家庭と共に歩む仕事 第11回：保育者と保護者との連携・協働－専門機関との協同・連携－ 第12回：保護者間の連携の意義 第13回：園としての学び合いの文化－保育者の成長と同僚関係－ 第14回：保育者の専門性と自己向上心 第15回：子どもと共に成長する保育者 <b>定期試験</b>			
テキスト	汐見稔幸・大豆生田啓友 『新しい保育講座2 保育者論』 ミネルヴァ書房 2019年		
参考書・ 参考資料等	澤津まり子 他 『保育者への扉』 建帛社 2016年		
学生に対する 評価	定期試験(70%)で評価する。保育者としての基礎知識及び基本的な資質について、独自のルーブリックに基づいて評価する。 知識・理解と論理構成及び表現力の観点から評価する(30%)		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後に、予習・復習をする。		

授業科目名	教育原理	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	織田 克巳	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び 思想
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 人間の生涯発達における教育の意義、欧米や日本の「子ども観」の変遷や現代の子どもをとり巻く課題などの理解を深める。そして、「教育とは何か」について演習（アクティブラーニング）を経て幼児教育の在り方について考える。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・教育に関する歴史と思想、教育の方法に関する理論を理解する。 ・日本や諸外国の教育制度などについて理解する。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション：「保育における教育原理とは－保育の理念・目標と教育との関連－」 第2回：教育と児童福祉の関連Ⅰ－児童の権利に関する条約と教育の権利－ 第3回：教育と児童福祉の関連ⅡDVD「見えない“貧困”－未来を奪われる子どもたち－」から 第4回：諸外国の教育の源流とその発展 －コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル等の幼児教育論－ 第5回：日本の教育の源流とその発展－日本の幼児教育の流れ－ 第6回：演習Ⅰ「教育の基礎的概論と諸理論－人物の特徴をグループワーキングし発表する－」 第7回：子ども観と教育観の変遷－西洋と日本－ 第8回：教育制度1、教育制度の基礎 第9回：教育制度2、アメリカ・中国・ドイツと日本・戦前の日本 第10回：演習Ⅱ「諸外国と日本、及び戦前の日本の特徴をグループワーキングし発表する－」 第11回：教育の実践－教育の方法とその内容、そして教育評価－ 第12回：生涯学習社会における教育－生活学習の基礎と課題 第13回：現代の教育における問題と課題－OECD・リカレント教育の基本原則－ 第14回：演習Ⅲ「子どもの実情から－いじめ・不登校・特別支援－」 第15回：まとめ：－ポイントの整理と保育士試験問題傾向－ <b>定期試験</b>			
テキスト	プリント配布		
参考書・ 参考資料等	・平成29年3月31日告示「保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領・幼稚園教育要領」全国保育士会編 ・「教育原理」改訂・保育士養成講座編纂委員会編（全国社会福祉協議会）		
学生に対する 評価	定期試験（70％）・提出物（30％）から総合的に判断する。		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	提出物に向けて、各自、復習をすること		

授業科目名	教育行政論	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	織田 克巳	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的 事項（学校と地域との連携及び学校安全 への理解を含む）
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・後期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 教育行政学に関する基礎的・基本的な考え方（原理・原則）を幅広く紹介し、今後の教育行政をめぐる様々な課題と展望について考察する。 ①毎回の授業の予習及び復習を行うこと。②教育体験と結びつけて授業内容を考えること。③アクティブラーニングでは発表力をつけるため小レポート及びプレゼンを要求する。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ①教育行政学に関する基礎的・基本的な知識を理解・習得する。 ②教育法規や制度と学校における実践的な諸課題の関連について理解を深める。 ③教育行政学の受講を通じて、教育制度に関するものの見方や考え方を問い直す。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション／教育行政とは（現代の公教育制度） 第2回：教育振興計画が示す教育施策（教育振興計画と児童の権利に関する条約） 第3回：教育法規（憲法・教育基本法・学校教育法） 第4回：教育政策と教育行政の基本原則（教育政策と教育行政の変遷） 第5回：文部科学省・教育委員会（わが国の統治機構／新しい教育委員会制度） 第6回：保育と幼児教育の専門性（保育士と幼稚園教諭、保育教諭） 第7回：教職員の職務（保幼小中職員組織・職務） 第8回：現代の教育問題Ⅰ（複雑化するいじめ） 第9回：現代の教育問題Ⅱ（不登校・児童虐待への対応） 第10回：幼児と児童・生徒の管理Ⅰ（就学義務・指導要録等） 第11回：幼児と児童・生徒の管理Ⅱ（安全点検・学校事故・防災） 第12回：学校評価（自己評価・学校関係者評価・第三者評価） 第13回：コミュニティスクールの制度（地域社会との連携・ICT活用のねらいと効果） 第14回：教職員の服務と研修（教職員の服務・懲戒と分限・教職員研修） 第15回：教育財政と教育行政改革（教育財政・幼児期の実情から学ぶ諸課題）			
<b>定期試験</b>			
テキスト	担当教員作成によるレジュメ配布		
参考書・ 参考資料等	横井敏郎編著『教育行政学（改訂版）』八千代出版、2017年。 伊藤良高著『幼児教育行政学（増補版）』晃洋書房、2018年。 坂田仰ほか編著『新訂第3版 図解・表解 教育法規』教育開発研究所、2017年。		
学生に対する 評価	定期試験（60％）および演習と授業レポート（40％）から、総合的に評価する。試験は基礎的な知識を問う問題と論述問題で構成する。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	提出物に向けて、各自、復習をすること		

授業科目名	発達心理学	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	谷 真弓	施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 「受胎から死に至るまで」の変化の過程をさす人間の発達について、それぞれの発達段階ごとに、どのように心身が質的・量的に変化していくのか生涯発達の観点から検討していく。その中でも、乳幼児期における発達の様相や初期経験の重要性について理解を深め、どのような関わり方や対応が子どもの全人的な発達に望ましいのかを考察する。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・人間の心身の発達に関する心理学の基礎を身に付け、子どもへの理解を深める。 ・発達のプロセスについて理解を深め、発達段階を踏まえた適切な対応や教育方法について学ぶ。			
<b>授業計画</b> 第1回：発達心理学とは「発達の概念」 ＊エンカウンターグループ 第2回：人間の赤ちゃん「新生児の能力【乳児期①】」 第3回：赤ちゃんとお母さん「母子密着の形成【乳児期②】」 第4回：話すということ「言葉の発達【幼児期①】」 第5回：第一反抗期とは「自我の発達【幼児期②】」 第6回：友達をつくる「社会性の発達【児童期①】」 第7回：思考する力「認知の発達【児童期②】」 第8回：自分とは？「思春期の悩み【青年期】」 第9回：人生のまとめ「老いるということ【中・老年期】」 ＊中間テスト 第10回：性格について「性格の発達」 第11回：意欲をのばす「達成動機の発達」 第12回：発達障害について①「発達障害の分類」 第13回：発達障害について②「理解と援助」 第14回：様々な発達理論について 第15回：まとめ 専門用語（発達心理学キーワード） ＊グループワーク <b>定期試験</b>			
テキスト	保育の心理学Ⅰ 2018 一藝社 谷田貝公昭・石橋哲成[監修] 西方毅・福田真奈[編著]		
参考書・参考資料等	山内光哉編「発達心理学上・下」ナカニシヤ出版 他 ＊適宜、授業内で多数紹介		
学生に対する評価	定期試験（60％） 毎回の授業内容を小テスト形式で確認（40％） また、自らの経験やエピソードと発達心理学のトピックを重ね合わせて考察できる見方を身に付けることを目指して、ミニレポートの作成・提出あり。		
授業時間外の学修（準備・復習）	授業内での課題や小テストに向けて、各自で復習 事前にテキスト・資料等を読み、各自で予習		

授業科目名	教育心理学	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	谷 真弓	施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 生活と遊びを通してより社会的な存在として、成長・発達していく子どもの姿について、心理学的な知見をもとに理解していく。具体的には、人格や適応、個人や集団における経験や学習の過程に注目し、子どもの特性や状況を的確に捉えて、一人ひとりに応じた対応や教育ができる実践力を身に付けることを目指す。また、発達障害についての理解を深め、特別支援教育についても学ぶ。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・人間の経験や学習の過程に関する心理学の基礎を身に付け、子どもへの理解を深める。 ・子どもの心理を捉え、その特性や状況に応じた対応や教育方法について学ぶ。			
<b>授業計画</b> 第1回：教育心理学とは オリエンテーション 第2回：発達と教育について「様々な学習理論①」 第3回：発達と教育について「様々な学習理論②」 第4回：乳幼児期の理解「認知の発達について」 第5回：児童期の理解「知的機能の発達について」 第6回：青年期の理解「身体的・社会的・心理的变化について」 第7回：個人差「パーソナリティ・学力・創造性とは」 ＊性格検査 第8回：動機付け「様々な認知理論について」 第9回：学習過程「学習の成立とは」 第10回：人格と適応①「適応・不適応について」 第11回：人格と適応②「精神衛生について」 第12回：学校生活への不適応 「不登校・いじめ・非行」 第13回：発達障害について①「事例」 第14回：発達障害について②「支援方法」 第15回：まとめ 様々な学習理論について <b>定期試験</b>			
テキスト	保育の心理学Ⅱ 2018 一藝社 谷田貝公昭・石橋哲成[監修] 福田真奈・西方毅[編著]		
参考書・ 参考資料等	西村純一・井森澄江編「教育心理学エッセンシャルズ」ナカニシヤ出版 他 ＊適宜、授業内で多数紹介		
学生に対する 評価	定期試験（80％） 提出物等（20％） 毎回の授業内容を小テスト形式で確認する。講義形式が中心であるが、グループでのディスカッション・ワーク等を行い、互いに学び合える機会を取り入れる。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業内での課題や小テストに向けて、各自で復習 事前にテキスト・資料等を読み、各自で予習		



授業科目名	保育・教育課程総論	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	杉森 眞理子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム、マネジメントを含む)
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位 (30時間)
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 保育課程・教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、実情に応じたカリキュラム・マネジメントを行う意義を理解する。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 保育・教育課程の意義、役割、機能を理解するとともにその編成の基本的原理を理解している。また保育・教育課程全体をマネジメントする意義を理解している。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 保育課程・教育課程―保育における計画の変遷― 第2回：「保育」の基本と計画 第3回：指導の計画の種類及び役割 第4回：保育における計画の考え方―乳児期と幼児期の基礎理論 第5回：保育・教育の基本計画と5領域との関連 第6回：教育課程の見直し―特色ある保育の意義とその必要性 第7回：小学校における計画となめらかな接続について 第8回：保育課程の見直し―特色ある保育の意義とその必要性 第9回：カリキュラム・マネジメントの意義及び重要性とその改善 第10回：日案から週案の作成―保育所3歳児 第11回：日案から週案の作成―幼稚園4歳児 第12回：0・1・2歳児指導計画の実際 第13回：3・4歳児指導計画の実際 第14回：5歳児指導計画の実際 第15回：年間 保育・教育カリキュラムと園行事との関係性 まとめと全体の理解度の確認 <b>定期試験</b>			
テキスト	「保育課程・教育課程総論」 (柴崎正行、戸田雅美、増田まゆみ ミネルヴァ書房)		
参考書・ 参考資料等	「保育課程・教育課程総論」 (柴崎正行、戸田雅美、増田まゆみ ミネルヴァ書房) 保育所 保育指・同針解説 (平成29年3月31日告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月31日告示内閣府・文部科学省・厚生 労働省) 「新版教育・保育課程論」 (谷田貝公昭、石橋哲成監修、高橋弥生・大沢裕著 一藝社) その他必要に応じて適宜指示・配布する。		
学生に対する 評価	定期試験 (80%) レポート・課題 (20%)		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業課題等の作成 授業の前後で、テキストを予習・復習		



授業科目名	教育方法・技術論	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	杉森 眞理子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 保育者は保育場面においてどのように考え、どのような能力を身につけなければならないのか問題意識をもち、教育・保育の方法・技術に関する基礎知識・技能を実践的に身につけるための講義を行う			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 教育・保育の方法・技術に関する基礎知識・技能を実践・省察をする。 また他者に分かりやすく伝えるために留意すべき点について、自ら、またはグループで協働しながら考察する。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション・教育方法の基礎的理論の理解 第2回：環境による保育—保育における環境構成の視点と援助 第3回：幼児の発達と社会的環境・地域社会と発達を促す教育方法 第4回：幼児の発達と物的環境・発達を促す教育方法 第5回：幼児の発達と人的環境と基本的生活習慣の確立 第6回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程・小試験 第7回：幼児教育・保育における情報教育とその活用（事例を通して探る） 第8回：学校教育と幼児教育との連続性・情報機器を活用した教材の構想と作成（グループ学習） 第9回：情報機器を活用した教材の作成（グループ学習） 第10回：情報機器を活用した教材の発表及び相互評価（グループ学習） 第11回：幼児理解に基づいた評価・小試験 課題レポートについて 第12回：幼児教育・保育における遊び 第13回：伝統と文化を活かした教育・保育（絵本・物語・紙芝居・手遊び）（グループ学習） 第14回：幼児教育の置ける計画と評価 第15回：これからの幼児教育に求めるもの・まとめ <b>定期試験</b>			
テキスト	『幼児教育・保育のための 教育方法論』（ミネルヴァ書房）		
参考書・ 参考資料等	幼稚園教育要領及び同解説（平成29年3月31日告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び同解説（平成29年3月31日告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針及び同解説（平成29年3月31日告示 厚生労働省） その他必要に応じて適宜指示・配布する		
学生に対する 評価	定期試験（70％）、小試験、提出物、レポート（30％）グループワークでの積極性を求める。		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業課題等の作成 授業の前後で、テキストを予習・復習		

授業科目名	こども理解の理論と方法	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	杉森 眞理子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基本的態度を理解するとともに幼児理解の具体的な方法も理解する			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 幼児理解は幼稚園教育のすべての営みの基本であることを踏まえ幼稚園における幼児の生活や、遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程での課題について、その要因を把握するための原理原則や具体的な対応方法を考えることができる。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション・教育方法の基礎的理論の理解 第2回：環境による保育—保育における環境構成の視点と援助 第3回：幼児の発達と物的環境・発達を促す保育方法 第4回：幼児の発達と社会的環境・地域社会と発達を促す教育方法 第5回：幼児の発達と人的環境と基本的生活習慣の確立 第6回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程との関連 第7回：保育形態—子どもにふさわしい園生活の展開— 第8回：保育記録及び保育記録の活かし方—ビデオ教材から探る 第9回：幼児教育・保育における遊びと教育方法の関係 第10回：特別に支援が必要な子どもへの支援方法 グループ学習と個別学習 第11回：伝統と文化を活かした教育・保育（絵本・物語・紙芝居・手遊び） 第12回：保育に活かす情報メディア 第13回：情報機器を活用した教材の作成（パワーポイント・実物投影機・静止画・動画） 第14回：パソコンを使用して園だよりの作成 第15回：これからの幼児教育に求めるもの・まとめ <b>定期試験</b>			
テキスト	「幼児理解の理論と方法」—発達や学びの過程に生じる「つまずき」に焦点を当てて— 中央法規出版社		
参考書・ 参考資料等	幼稚園教育要領及び同解説（平成29年3月31日告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び同解説（平成29年3月31日告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針及び同解説（平成29年3月31日告示 厚生労働省） その他必要に応じて適宜指示・配布する		
学生に対する 評価	定期試験（70％）、小試験、提出物、レポート（30％）グループワークでの積極的性を求める。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業課題等の作成 授業の前後で、テキストを予習・復習		

授業科目名	教育相談論	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	谷 真弓	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 人の内面や心理面に目を向けられる力を養い、子どもへの理解を深め、カウンセリングの理論とその方法に関して、ディスカッションやワークを通して学ぶ。そして、カウンセリングマインドを身に付けることを目指す。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 「教育相談」とは、子ども達が抱える様々な発達的な問題や障害について、専門的な立場から、助言や指導を行うことによって、そうした問題や障害へのアプローチを行っていくことである。このため、本授業では、保育者として、教育者として、現場に立つために必要なカウンセリング理論や面接技法を、ロールプレイやグループワークを通して学んでいく。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 授業の概要、進め方、評価方法について 第2回：現代社会と子ども 発達を支えるために、必要な子どもの見方とは？ 第3回：こころを理解する① 子どもの発達の姿を理解する 第4回：こころを理解する② 自己理解を目指したグループワーク 第5回：教育相談とは？ 教育相談の理論について 第6回：教育相談の内容 相談内容を概観し、必要な知識・技法等について 第7回：教育相談の実際① 必要とされる子ども理解—発達を中心に—について 第8回：教育相談の実際② カウンセリングマインドを学ぶ 第9回：教育相談の実際③ カウンセリングマインドを身に付ける 第10回：子どもの相談において① 事例検討を通して、子どもの教育相談の実際を学ぶ 第11回：子どもの相談において② 子どもの発達とその障害について 第12回：保護者の相談から① 事例検討を通して、保護者の教育相談を学ぶ 第13回：保護者の相談から② 精神障害について 第14回：教育相談における連携・協力 教員間や他機関との連携・協力について 第15回：まとめ 教育相談の実践に向けて <b>定期試験</b>			
テキスト	指定テキストなし ＊毎回、配布プリントを用いて授業を行います。		
参考書・参考資料等	林邦雄・谷田貝公昭（監修）保育相談支援 2012 一藝社 他 ＊適宜、授業内で多数紹介		
学生に対する評価	定期試験（70％） 毎回の授業内容を小テスト形式で確認する（30％）。講義形式が中心であるが、グループでのディスカッション・ワーク等を行い、互いに学び合える機会を取り入れる。		
授業時間外の学修（準備・復習）	授業内での課題や小テストに向けて、各自で復習 事前にテキスト・資料等を読み、各自で予習		

授業科目名	教育実習	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	杉森 眞理子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育実践に関する科目
必修・選択科目	必修科目	単位数	5単位（200時間）
開講学年・時期	1年生 2年生・通年	授業方法・担当形態	講義, 演習, 実習・単独
授業の概要			
事前事後の学習を含め、実習での「観察・参加・責任」実習を核にして総合的な力量を形成する。（実習園において適切に教育・保育活動に参加できる・実際の場の経験から教育・保育の意義や教師のあり方について理解できる・実習終了後に実習を総括し、発表できる）			
授業のテーマ及び到達目標			
幼稚園教諭として幼児の教育をつかさどる資質能力に資するため、幼稚園および認定こども園の保育の現場を総合的に知り、体験し、幼稚園および認定こども園での実習を通して、保育の基本を理解する			
授業計画			
事前指導 （20 時間）	○教育実習の概要	・実習の目的と心構え ・必要な書類提出とオリエンテーションにおける心構え ・1日の保育の流れ ・実習日誌の意義と書き方 ・実習指導案作成と活動の流れ ・幼児の発達年齢を踏まえた指導 ・実習課題を立てる。	
教育実習 （160 時間）	○担当教諭の助手として保育に参加し、教師の実践から学ぶ。 ○幼児や教師と生活を共にし、様々な教育活動を通して、自らの教育観を確かなものにする。 ○設定した実習課題を意識しながら実習に取り組む。 ＜内容＞ ・幼稚園に慣れる。 ・子どもを知る ・保育を知る ＜方法＞ ・観察実習（保育のすべての事象を観察し、記録する） ・参加実習（担当教諭の指導の下、幼児と直接かかわりながら学ぶ） ・責任実習（指導者として責任のある保育実践を行い学習する） ・部分実習（1日の中で、1部分を担当する） 絵本を読む・手遊びをする・シアターをする 等 ・全日実習（1日中を担当する または 半日実習＝半日を担当する）		
事後指導 （20 時間）	○教育実習を終えて ・実習を振り返り、実習課題について考察する。 ・実習で経験したこと、学んだこと、学び得なかったことを明確にする。 ○教師になった時のための準備 ・幼児の様相、指導の重点 ・学級経営、教材研究		
テキスト	改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド わかば社		
参考書・ 参考資料等	幼稚園教育要領及び同解説（平成29年3月31日告示 文部科学省） 保育所保育指針及び同解説（平成29年3月31日告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び同解説（平成29年3月31日告示内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
学生に対する 評価	学内実習演習評価（40％） 学外実習評価（50％） 事前事後（10％）の学習における積極性を求める		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業の予習・復習を行う		

授業科目名	保育・教職実践演習	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	野中 耕次・谷 真弓・ 杉森 眞理子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育実践に関する科目（総合演習）
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（60時間）
開講学年・時期	2年生・後期	授業方法・担当形態	演習・オムニバス
<b>授業の概要</b> 以下の4つの事項に関する観点に着目して、様々な演習を行う。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項③幼児理解や学級経営に関する事項④保育内容の指導力に関する事項			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 幼児の心身ともに健やかな発達を促すために必要となる保育・教育実践力を身につけることを目指す。具体的には、幼稚園教諭・保育士としての必要な知識技能の習得の確認・定着が図れるように、グループ討議、ロールプレイング、フィールドワーク、事例研究、教材研究、実務実習、附属幼稚園での体験・見学・意見交換などの演習に取り組み、実践力を獲得する。			
<b>授業計画</b> 第1回：①授業オリエンテーション ②保育者としての研究課題を企画する 第2回：幼稚園実習の振り返り ①教職の意義や役割 ②教員間の協調性について 第3回：保護者対応・地域貢献について ①事例の検討 ②グループ発表 第4回：幼稚園における行事の取り組み事例から意義と目的を理解する①企画②実施 第5回：園外保育活動の展開 「地域の公園・イベント広場・施設等」の指導案①企画②実施 第6回：現場における保育者としての資質を高めて保育実践 ①人形劇企画 ②制作 第7回：現場における保育者としての資質を高めて保育実践 ①制作 ②実践の練習 第8回：現場における保育者としての資質を高めて保育実践 ①実践（発表）②評価 第9回：研究レポート ①中間報告 ②中間報告 第10回：現場における防災対策を学ぶ （附属幼稚園 避難訓練など）①訓練参加 ②振り返り 第11回：造形遊びについて ①企画構成 ②制作 第12回：現場における保育計画 ①立案 ②実践 第13回：レポート ①作成 ②発表のまとめ 第14回：保育分野を検討 ①指導案の作成 ②発表・振り返り 第15回：①研究レポート報告会 ②履修カルテ作成 <b>定期試験</b>			
テキスト	幼稚園教育要領 ・ 保育所保育指針		
参考書・ 参考資料等	随時、授業内で、多数紹介		
学生に対する 評価	定期試験（70％）評価は、様々な演習への取り組みと発表、提出物、レポート等（30％） 総合的に評価する		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	提出物・レポートを作成する 授業前後に、質問を受ける		

授業科目名	保育原理	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	杉本 万貴子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 本授業では、保育とは何か、保育の基本を理解することを学ぶ。また、保育士の役割や時代の状況を把握する。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 保育の意義・目標・方法などに関する保育の専門知識を習得する 保育に関する専門知識を深め、保育について理解することができる。			
<b>授業計画</b> 第1回：保育とは何か 第2回：各年齢における「こどもの発達」と「こどもの理解」 第3回：世界にみる保育の思想と歴史 第4回：わが国にみる戦前と戦後の保育 第5回：保育の場（「家庭」という保育の場） 第6回：保育の場（公における保育の場） 第7回：保育の目標とは何か 第8回：保育の内容とは何か 第9回：保育の方法（環境を通して行う保育・生活と遊びを通じた総合的な保育） 第10回：保育における「個」と「集団」の育ち 第11回：保育の全体的な計画（指導計画・記録・評価） 第12回：保育者の専門性について（保育者の研修について） 第13回：保護者への支援 第14回：子育て支援と連携（保幼小の連携） 第15回：保育の現状と保育者の役割 <b>定期試験</b>			
テキスト	保育原理－はじめて保育の扉をひらくあなたへ（咲間まり子監修 中野明子・林悠子編集）		
参考書・ 参考資料等	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領		
学生に対する 評価	定期試験（60％）・授業課題（40％）		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業課題を作成する 授業前後に、質問を受ける		

授業科目名	子ども家庭福祉	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	池永 浩造	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> ・子ども家庭福祉の目的や意義などを概説するとともに、子どもを取り巻く様々な環境変化や虐待、貧困などの社会的問題について考える。そして、子どもや家庭に関わる保育者としての必要な知識や倫理観からその役割を学んでいく。また、子どもや家庭への支援的な福祉制度のあり方についても説明する。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・子ども家庭福祉の意義や子どもの権利について、また子どもに関する最善の利益などの意味についても理解し、保育者を目指す者としてそれぞれの説明ができるようにする。 ・子どもと家庭の社会的課題を理解し、その現状から支援の方法や必要な法制度を知り、保育者としての支援的実践力を養うことを目標とする。			
<b>授業計画</b> 第1回：子ども家庭福祉の対象                      子ども家庭福祉の対象となる子ども 第2回：子ども家庭福祉の理念                      児童福祉法と子ども家庭福祉の理念 第3回：子ども家庭福祉の歴史                      子ども家庭福祉の歴史的変遷 第4回：子育ての社会的課題                      子どもを育てる環境変化の現状と取り組み 第5回：子ども家庭福祉の法体系                      子ども家庭福祉を支える法律や関連する制度 第6回：子ども家庭福祉と行政                      行政機関として児童相談所などの目的、役割 第7回：子どもへの虐待①                      児童虐待の社会的背景や現状 第8回：子どもへの虐待②                      被虐待児や家庭に対する支援やその制度 第9回：子ども家庭福祉と保育                      保育所とその他の保育サービス 第10回：子ども家庭福祉と施設                      入所型児童福祉施設の目的、役割、機能 第11回：子ども家庭福祉と障がい児                      障がいのある子どもの理解と支援 第12回：子どもの権利擁護                      子ども権利条約と子どもの権利 第13回：子ども家庭福祉と地域支援                      地域福祉における子育て支援の活動と課題 第14回：子ども家庭福祉の専門職                      子どもの福祉を担う専門職 第15回：子ども家庭福祉のまとめ                      子ども家庭福祉の今後の課題や展望 <b>定期試験 試験</b>			
テキスト	使用しない。ただし、授業に関する資料を適宜配布する。		
参考書・ 参考資料等	必要に応じ授業内で紹介する。		
学生に対する 評価	定期試験（60％）・課題レポートなど（40％）		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後60分程度の予習・復習を行うこと		

授業科目名	社会福祉	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	野村 和樹	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 学生が自ら“他者を支援すること”を学びとれるよう、人間の尊厳や権利について、考え理解できるように社会福祉の理念を中心に講義を展開する。また、人間の尊厳が現代社会においていかに尊重されているのかを、福祉の制度施策に照らし合わせて考える。その上で、社会福祉における価値観や倫理、人権意識、思想、歴史などを体系的に学び理解する。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 1. 人間の尊厳と権利について理解できる 2. 社会福祉に関わる制度施策が理解できる 3. 各種の福祉サービスを理解し社会資源として活用できる			
<b>授業計画</b> 第1回：児童に見る権利の変遷と社会の歴史Ⅰ 社会の負担としての児童から労働力としての児童 第2回：児童に見る権利の変遷と社会の歴史Ⅱ 次代の国身としての児童から権利の主体としての児童 第3回：社会的養護のおこりⅠ 明治時代にはじまる社会的養護Ⅰ 第4回：社会的養護のおこりⅡ 明治時代にはじまる社会的養護Ⅱ 第5回：社会的養護のおこりⅢ 感化事業の創設と展開 第6回：児童領域における今日の社会福祉とは 児童の権利条約と児童福祉法 第7回：障がい者の福祉とは 第8回：障がい者福祉に関わる法制度Ⅰ （身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法等） 第9回：障がい者福祉に関わる法制度Ⅱ （障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法等） 第10回：障害の理解 第11回：高齢期の社会福祉とは 第12回：介護保険制度 第13回：貧困問題 第14回：生活保護法 第15回：まとめ <b>定期試験</b>			
テキスト	レジュメを配布		
参考書・ 参考資料等	適宜紹介		
学生に対する 評価	定期試験（80％）・授業内発表（20％）		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後で、予習・復習を行う 授業前に、レジュメを読み込んでおく		



授業科目名	子ども家庭支援論	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	篠田 孝一	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> <p>子ども家庭支援を必要とする現代の子育て家庭がおかれている状況について解説する。保育士による子ども家庭支援の基礎のほか、子育て家庭の支援体制などについて学んでいく。</p>			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <p>子ども家庭支援について基本的な事項を理解するとともに、現代の子育てにおける家庭内外の問題に日頃から関心を持ち、重要な論点について考えることができるようにしたい。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：子ども家庭支援論とは（授業の概要説明）</p> <p>第2回：子ども家庭支援の意義と必要性（1）家庭の意義と機能</p> <p>第3回：子ども家庭支援の意義と必要性（2）男女共同参画社会</p> <p>第4回：子ども家庭支援の意義と必要性（3）出生率の低下</p> <p>第5回：子ども家庭支援の意義と必要性（4）現代の家庭をめぐる子育て環境</p> <p>第6回：子ども家庭支援における保育士の役割</p> <p>第7回：保育士による子ども家庭支援の基本</p> <p>第8回：保育を活かした子ども家庭支援の意義</p> <p>第9回：子ども・子育て支援新制度の概要</p> <p>第10回：子育て家庭の福祉を図るための社会資源（1）専門機関</p> <p>第11回：子育て家庭の福祉を図るための社会資源（2）子育て支援サービス</p> <p>第12回：子ども家庭支援の対象（1）保育所を利用する子どもの家庭に対する支援</p> <p>第13回：子ども家庭支援の対象（2）地域の子育て家庭に対する支援</p> <p>第14回：子ども家庭支援の現状と課題</p> <p>第15回：総復習（まとめ）</p>			
<b>定期試験</b>			
テキスト	小田 豊・日浦直美・中橋美穂 編著『家庭支援論 [新版]』（北大路書房）		
参考書・ 参考資料等	適宜プリントを配付する。		
学生に対する 評価	定期試験（60％）、課題・小レポート・グループ学習（40％）		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業内での課題や小テストに向けて、各自で復習する 授業範囲のテキストを読んでおく		

授業科目名	社会的養護 I	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	池永 浩造	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護の基礎的な概念及び児童福祉施設の目的や役割などを概説すると共に、その法的根拠や制度のあり方、権利擁護の姿勢、自立などの支援について、また児童福祉施設の歴史などにも触れ、社会における社会的養護の必要性和実践の場としての児童福祉施設の総合的理解を深める。</li> </ul>			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護としての児童福祉施設における子どもの家庭代替的支援や、またその支援に関係する様々な制度や法律についての学びを深める。そして、施設入所での養護問題に関する子どもや家族への支援プロセスも学び理解することで、施設保育士としての専門的役割を明確にし、児童福祉施設現場での通用しうる保育力をつけていく。</li> </ul>			
<b>授業計画</b>			
第1回：社会的養護の基本①	オリエンテーション／ 社会的養護の理解		
第2回：社会的養護の基本②	社会的養護の養育支援や援助の基本的方向性		
第3回：社会的養護の体系	施設養護や家庭的養護及び家庭養護		
第4回：児童福祉施設の歴史	明治からの施設の歴史的な歩み		
第5回：社会的養護の現状	施設の目的役割の現状や取り組みと課題		
第6回：社会的養護の役割①	施設における養育の実際と自立支援		
第7回：社会的養護の役割②	施設における家族（家庭）支援		
第8回：社会的養護の種別①	家庭に問題のある子どもの施設・乳児院		
第9回：社会的養護の種別②	家庭に問題のある子どもの施設・児童養護施設		
第10回：社会的養護の種別③	障がいのある子どもの施設 ・障がい児施設		
第11回：社会的養護と虐待	虐待を受けている子どもの施設での支援		
第12回：社会的養護と権利	入所児の権利擁護と人権		
第13回：社会的養護の仕組み	施設に関する法律や制度、運営		
第14回：社会的養護に関わる人々	施設職員の役割と専門性		
第15回：社会的養護のまとめ	社会的養護の今後の課題や展望		
<b>定期試験</b>			
テキスト	使用しない。ただし、授業に関する資料を適宜配布する。		
参考書・参考資料等	必要に応じ授業内で紹介する。		
学生に対する評価	定期試験（60％）・課題レポートなど（40％）		
授業時間外の学修（準備・復習）	授業前後で、予習・復習を60分程度、行う 授業資料を読んでおく		

授業科目名	子どもの保健	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	黒瀬 久美子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 子どもの命を脅かさない、さらに子どもの命を守るための基本的な知識と捉え方・考え方及び行動を身につけていく。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 人間の発達段階には「子ども」という期間がある。ここでは「なぜ子ども期があるのか」について学び理解することを目的に以下の目標達成を目指す。 ①子どもの位置づけと子どもの発育発達の意味及び健康を理解し、説明できる。 ②子どもの発達段階をしっかりとイメージできる。 ③子どもの病気について理解し、異変に気づくことができる。			
<b>授業計画</b> 第1回：人のライフサイクルと健康 第2回：子どもの健康と保健の指標 第3回：地域における保健活動と児童虐待防止～マルトリートメントのとりえ方～ 第4回：心身の発達の特徴～身体発育～ 第5回：胎児の成長発達 第6回：生理機能の発達①ホメオスタシス・呼吸・乳幼児突然死症候群の予防 第7回：生理機能の発達②体温・循環・血液 第8回：生理機能の発達③消化吸収・排泄・睡眠 第9回：脳神経系と運動機能の発達 第10回：脳神経系と感覚機能の発達 第11回：子どもの歯の発達 第12回：子どもの病気①呼吸器の病気 第13回：子どもの病気②循環・血液・消化器・泌尿器・生殖器の病気 第14回：子どもの病気③皮膚・整形外科的病気・口腔・眼・耳・鼻の病気 第15回：子どもと予防接種 <b>定期試験</b>			
テキスト	高田正子編著「子どもの保健と安全」教育情報出版		
参考書・ 参考資料等	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」		
学生に対する 評価	定期試験（70％）、小テスト・提出物（30％）にて評価		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	予習・復習・課題に取り組む		

授業科目名	子どもの食と栄養	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	古田 豊子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位・60時間
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> ・ 子どもの発達段階に応じた健全な発育・発達を促すために必要な事柄を学び、食育を的確に把握・実践できるようになる。 ・ 各種指針の趣旨を理解し、保育実践に生かす力をつける。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 子どもが心身ともに健全な生活を営むために必要な食生活や栄養に関する知識を学び、食育指導の実践力を習得する。			
<b>授業計画</b> <b>第1回：</b> 1. 子どもの心身の健康と食生活の意義 （参照：『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～』） ①子どもの心身の健康と食生活、保育における食育の意義・目的と基本的考え方 <b>第2回：</b> ②子どもの食生活の現状と課題・食育のための環境、関係機関や職員間の連携 <b>第3回：</b> 2. 子どもの発育・発達と食生活 （参照：『保育所における食事の提供ガイドライン』） ①発育・発達の基本的知識 <b>第4回：</b> ②食べる機能の発達に関する基本的知識 （参照：『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』） <b>第5回：</b> 3. 栄養に関する基本的知識 （参照：『食育白書』） ①栄養の基本的知識、小児の栄養摂取 <b>第6回：</b> ②献立作成と調理の基本1 <b>第7回：</b> ③献立作成と調理の基本2 <b>第8回：</b> ④献立作成と調理の基本3 <b>第9回：</b> 4. 食の衛生と安全 ①食中毒の原因とその特徴 <b>第10回：</b> ②食品表示、食品添加物について <b>第11回：</b> 5. ライフステージ別の栄養と食生活 （参照：『国民健康・栄養調査』） ①胎児期 <b>第12回：</b> ②乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 <b>第13回：</b> ③幼児期の心身の発達と食生活 <b>第14回：</b> ④学童期・思春期の心身の発達と食生活 <b>第15回：</b> ⑤生涯発達と食生活 <b>定期試験</b>			
テキスト	イラスト 子どもの食と栄養 東京教学社		
参考書・ 参考資料等	保育所保育指針（厚生労働省）等		
学生に対する 評価	定期試験（60％） 課題提出（20％） 調理実習（20％）		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	提出課題に取り組む 授業前後に、質問を受ける		

授業科目名	子どもの食と栄養	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	古田 豊子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位・60時間
開講学年・時期	2年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 子どもの健全な発育・発達を促すための指導について、模擬授業や調理実習など具体的な実践を通して習得する。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 各種指針等示された食育についての基本事項を習得し、食育の目標に到達する実践的な指導力を身につける。			
<b>授業計画</b> 第1回： 1. 食育の基本と内容（参照：食育基本法・食育推進基本計画） ①食育の重要性について 第2回：                   ②食育の基本的な内容を養護・教育の一体性を踏まえた保育について学ぶ 第3回：                   ③食育のための環境について（参照：保育所における食育に関する指針） 第4回：                   ④食生活指導・支援について 第5回： 2. 家庭や施設における食事と栄養           ①家庭における食事と栄養 第6回：                   ②施設における食事と栄養 第7回：                   ③災害時の栄養 第8回： 3. 配慮を要する子どもの食と栄養           ①持病および体調不良の子どもへの対応 第9回：                   ②障がいのある子どもへの対応 第10回： 4. 子どものおやつについて考える           ①子どもの栄養とおやつ 第11回：                   ②手作りおやつ 第12回：                   ③実習計画 第13回：                   ④手作りおやつ実習 第14回： 5. 食物アレルギーの基本知識（参照：アレルギー対応ガイドライン） ①食物アレルギーのある子どもへの対応 第15回：                   ②保育所における食物アレルギーへの対応 <b>定期試験</b>			
テキスト	イラスト 子どもの食と栄養           東京教学社		
参考書・ 参考資料等	保育所保育指針（厚生労働省）		
学生に対する 評価	定期試験（60%）   課題提出（20%）   調理実習（20%）		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	提出課題に取り組む 授業前後に、質問を受ける		

授業科目名	子どもの理解と援助	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	谷 真弓	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 以下の授業テーマを持って、子ども理解を深め、その援助について考察する。 ・子どもの実態に応じた発達や学びを把握するとは？ ・子ども理解する視点を持ち、子ども理解に基づく発達援助の方法とは？			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 保育実践において、子ども一人ひとりの心身の発達について理解し、その子どもの学びの過程を捉える意義について学ぶ。そして、子ども理解に基づいて、保育者としての援助や基本的な態度を身につけることを目指す。			
<b>授業計画</b> 第1回：子ども理解とは 第2回：子どもの発達の理解 第3回：子ども理解と環境理解 第4回：子ども理解を深めるための実態把握 第5回：子ども理解からはじまる計画と援助 第6回：保育実践における子ども理解 第7回：子ども理解と養護 第8回：気になる子ども理解と援助 第9回：障害のある子どもの理解と援助 第10回：子ども理解と保護者理解 第11回：子育て支援・家庭支援と子ども理解 第12回：専門機関との子ども理解の共有 第13回：子ども理解を深める実践と省察 第14回：保育カンファレンスにおける子ども理解 第15回：子ども理解に基づく援助から生れるもの <b>定期試験</b>			
テキスト	保育士を育てる③『子どもの理解と援助』2020 一藝社 [監修]谷田貝公昭 [編著]大沢裕・藤田久美		
参考書・ 参考資料等	適宜、授業内で多数紹介		
学生に対する 評価	定期試験（80％） 授業内課題（20％）（提出物、発表など） 授業内容の区切りごとに、小テストを実施（8～10回程度） 講義形式が中心であるが、グループでのディスカッション・ワーク等を行い、互いに学び合える機会を取り入れる。		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業内での課題や小テストに向けて、各自で復習 事前にテキスト・資料等を読み、各自で予習		

授業科目名	子ども家庭支援の心理学	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	谷 真弓	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・後期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 子どもの経験や学習過程の理解と保育における発達援助等を含めた、子ども理解の具体的な方法について、学んでいく。心理学的な視点を持って、子ども、保護者を理解し、子育て家庭を支援する方法・実践について考察していく。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 家庭の意義と機能、子育て家庭を取り巻く社会状況を理解し、生涯発達と初期経験の重要性や子どもの精神保健について理解を深める。			
<b>授業計画</b> 第1回：乳幼児期から学童期前期の発達 第2回：学童期後期から青年期の発達 第3回：成人期・老年期の発達 第4回：生涯発達の視点 第5回：家族・家庭の機能の変容 第6回：子育てを取り巻く社会的状況 第7回：現代の家庭における人間関係 第8回：親になるということ 第9回：ワーク・ライフ・バランスと子育て 第10回：多様な家庭環境と子どもの育ち 第11回：特別な支援を必要とする家庭 第12回：地域社会における家庭支援 第13回：子どもの生活環境と育ちへの影響 第14回：子どもの生育と発達 第15回：子どもの心の健康と課題 <b>定期試験</b>			
テキスト	保育士を育てる②『子ども家庭支援の心理学』2020 一藝社 [監修]谷田貝公昭 [編著] 藤田久美・瀧口綾		
参考書・ 参考資料等	適宜、授業内で多数紹介		
学生に対する 評価	定期試験（80％） 授業内課題（20％）（提出物、発表など） 授業内容の区切りごとに、小テストを実施（8～10回程度） 講義形式が中心であるが、グループでのディスカッション・ワーク等を行い、互いに学び合える機会を取り入れる。		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業内での課題や小テストに向けて、各自で復習 事前にテキスト・資料等を読み、各自で予習		

授業科目名	人権教育	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	長澤 敦士	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	選択科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 「養育者」・「子ども」・「保育者」を児童福祉や幼児教育の現場にかかわる「当事者」と定め、それぞれの視点から児童福祉や幼児教育の現場で起きている「人権」にかかわる社会問題を受講生のみなさんと共有します。その上で、これまでの人権教育/保育の思想や実践に学びながら、これからの社会で求められる人権教育/保育のあり方を受講生のみなさんと一緒に探求します。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 1. 人権教育/保育の意義・目的について自分の言葉で説明できる。 2. 人権教育/保育の歴史・思想とその背景にある人権の思想・歴史について自分の言葉で説明できる。 3. 子どもや若者の権利を保障する教育や福祉の法的・制度的仕組みについて自分の言葉で説明できる。 4. 現代の子ども・若者の権利にかかわる社会問題について複眼的に考え、自分なりの意見を展開できる。			
<b>授業計画</b> 第1回：はじめにー「傷」に気づくということ 第2回：「子どもらしくある」ために必要なことー子どもの権利の歴史・思想について考える 第3回：子どもを“産まない”ことのジレンマー「養育者」の視点から社会問題を考える① 第4回：子どもを育てることが「罰」になるときー「養育者」の視点から社会問題を考える② 第5回：みんな違って、みんないい、のか？ー「子ども」の視点から社会問題を考える① 第6回：『カランコエの花』ー「子ども」の視点から社会問題を考える② 第7回：愛と正義を否定された先に、何をどうすればいいのかー「子ども」の視点から社会問題を考える③ 第8回：家族に足を引っ張られる人生ー「子ども」の視点から社会問題を考える④ 第9回：お前は誰だ！？ー「子ども」の視点から社会問題を考える⑤ 第10回：やめたくても、やめられないことー「子ども」の視点から社会問題を考える⑥ 第11回：中間レポートの振り返り①ー「人権」に関する絵本を紹介しよう！ 第12回：中間レポートの振り返り②ー「人権」に関する絵本を紹介しよう！ 第13回：「そんなつもりじゃなかった」という言い訳ー「保育者」の視点から社会問題を考える① 第14回：子どものために“なれない”わたしたちー「保育者」の視点から社会問題を考える② 第15回：おわりにー「傷」を愛するということ <b>定期試験</b> ※上記の授業計画はあくまで予定であり、受講生の興味・関心によって計画を変更する場合があります。			
テキスト	特に指定はありません。		
参考書・ 参考資料等	必要な資料は、授業内で適宜紹介します。ただし、以下の書籍は本授業の内容を深めるために参考になる文献です。 桜井智恵子（2012）『子どもの声を社会へ：子どもオンブズの挑戦』、岩波書店。 森山至貴（2020）『10代から知っておきたい あなたの閉じこめる「ずるい言葉」』、WAVE出版。 法務省・文部科学省編（2024）『人権教育・人権啓発白書（令和6年版）』		
学生に対する 評価	定期試験 60%（定期試験は論述形式を予定しています。） 授業内評価 30%（コメントシートの内容、授業内での発表、など。） 授業外評価 10%（中間レポート）		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	予習・復習・課題などを含めて、60分程度の学習を行う 中間レポートを作成する		



授業科目名	乳児保育Ⅰ	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	杉本 万貴子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 本科目では、最も著しい発育、発達をとげる乳児期（3歳児未満）の特徴を理解し、適切な養育・保育の方法を習得することを目指す。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 乳児の発育、発達を理解と知識、職業の理解 乳児保育に関わる確かな知識と職業理解を身に付けることができる。			
<b>授業計画</b> 第1回：乳児保育の目的と意義 第2回：乳児保育の役割と機能 第3回：乳児保育が営まれる多様な場 第4回：0歳児の発育・発達と保育 第5回：1歳児の発育・発達と保育 第6回：2歳児の発育・発達と保育 第7回：移行期の子どもへの関わり 第8回：乳児保育における連携・協働 第9回：乳児保育における基本的生活の援助 第10回：乳児保育における健康支援 第11回：乳児保育における衛生と安全 第12回：乳児保育における生活と遊び 第13回：乳児保育における計画と評価 第14回：多様性をめざす乳児保育 第15回：乳児保育の基本から応用へ <b>定期試験</b>			
テキスト	乳児保育Ⅰ・Ⅱ（後藤由美・菊池篤子 編著）		
参考書・ 参考資料等	保育所保育指針		
学生に対する 評価	定期試験（70％）・小テスト及び提出物（30％）		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	小テストに向けて、復習する 提出物を作成する 授業前後に、質問を受ける		

授業科目名	乳児保育Ⅱ	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	杉本 万貴子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 本科目では、最も著しい発育、発達をとげる乳児期（3歳児未満）の特徴を理解し、適切な養育・保育の方法を、演習を通して習得することを目指す。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 乳児の発育、発達を理解と知識、職業の理解 乳児保育に関わる確かな知識と職業理解を身に付けることができる。			
<b>授業計画</b> 第1回：移行期の子どもへの環境的配慮と関わり 第2回：乳児保育における様々な連携・協働 第3回：乳児保育における基本的生活の援助と適した環境 第4回：0歳児の発育・発達と保育（離乳食／沐浴／おむつ交換） 第5回：1歳児の発育・発達と保育（離乳食から幼児食への移行の配慮／おむつ交換） 第6回：2歳児の発育・発達と保育（衣服の着脱援助／着脱の自立） 第7回：健康面への配慮・援助（配慮を必要とする子どもへの対応） 第8回：乳児保育における衛生管理 第9回：乳児保育における事故防止と安全対策 第10回：乳児保育における災害対策と危機管理 第11回：0・1・2歳児の保育の1日を理解する 第12回：室内遊びと戸外遊びの関りと配慮事項 第13回：人・物との関わる遊びを通しての配慮 第14回：保育ニーズの多様化 第15回：乳児保育の基本から応用へ 総合まとめ <b>定期試験</b>			
テキスト	乳児保育Ⅰ・Ⅱ（後藤由美・菊池篤子 編著）		
参考書・ 参考資料等	保育所保育指針		
学生に対する 評価	定期試験（70％）・レポート提出（20％）・準備に取り組む姿勢を総合して評価（10％）		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業前後に、予習・復習する 提出物を作成する 授業前後に、質問を受ける		

授業科目名	子どもの健康と安全	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	黒瀬 久美子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> めまぐるしく変化する子どもの健康と安全問題を把握し、現場において保健活動を展開できる基礎を身につけるために演習を通して、学習シートを活用しながら理解を深める。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 子どもの健康と安全に関しての実践能力を養う事を目的に以下の目標達成を目指す。 ①健康安全のとらえ方・考え方を理解し、健康観察できる。 ②成長発達に応じた環境を整え、さらに適切な対応ができる。 ③保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。 ④健康と安全に関わる組織的連携・協働について理解する。 キーワード：みて・きいて・ふれて・かんじて・伝える			
<b>授業計画</b> 第1回：子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康～観察～ 第2回：保育における衛生管理～掃除・消毒・手洗い・うがい～ 第3回：子どもの健康と保育環境～発達過程ごとの事故の特徴～ 第4回：事故防止と安全対策 第5回：子どもの危機管理と災害への備えーヒヤリハット 第6回：体調不良とけがの手当 第7回：感染対策ガイドラインとは 第8回：ガイドラインに基づく対処方法 第9回：感染しやすい時期・留意点 第10回：罹患後の対応～登園の目安（出席停止期間）と届出～ 第11回：保育における保健対応①アレルギー疾患への対応 第12回：保育における保健対応②慢性疾患児への対応 第13回：保育における保健対応③障がいのある子ども・医療的ケア児への対応 第14回：子どもの保健と行政 第15回：子どもの健康と安全管理の実施体制～自治体・地域との連携～ <b>定期試験</b>			
テキスト	高田正子編著「子どもの保健と安全」情報教育出版社		
参考書・ 参考資料等	保育所における感染症対策ガイドライン」「保育におけるアレルギー対応ガイドライン」 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」		
学生に対する 評価	演習及び定期試験(70%) ・受講演習に取り組む姿勢(30%)		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業範囲のテキストを読み、授業前後に、予習・復習に取り組む		

授業科目名	障害児保育	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	大谷 和夫	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	講義・単独
<b>授業の概要</b> 一人一人の子どもが総合的に理解され、適切に支援されながら、自立し社会参加するための保育支援について学ぶ。そのステップとして、障害のある子どもたちの状況、その観察方法、配慮・支援の仕方について理解し、子どもを育てる家族の心理や生活について学び、子育て状況を踏まえた支援について考える。配付資料や動画教材などを用いて授業を進めるとともにグループワークも活用していきたい。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ① テーマ 子どものニーズ正しく理解するとともに、適切な支援について学ぶ。 ② 目標 支援や配慮の必要な子どもの理解や支援方法、インクルーシブ保育の意義、地域社会支援、家族への支援のあり方等についての理解を深めることを目的とする。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 障害児保育の理念 「障害」「活動」「参加」 第2回：支援や配慮の必要な子ども 第3回：子ども理解と支援（1）知的障害のある子ども 第4回：子ども理解と支援（2）運動障害のある子ども 第5回：子ども理解と支援（3）視覚障害のある子ども 第6回：子ども理解と支援（4）聴覚障害のある子ども 第7回：子ども理解と支援（5）自閉症スペクトラム障害のある子ども 第8回：子ども理解と支援（6）学習障害・AHDのある子ども 第9回：子どもの状況を把握する方法 第10回：障害児保育の計画と実際 第11回：家庭における子育て支援 第12回：関係機関連携による支援 第13回：制度の活用と支援 第14回：「自立」と「社会参加」をめざす保育・教育 第15回：まとめ：めざすべき社会 <b>定期試験</b>			
テキスト	授業内適宜、資料配布		
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介する		
学生に対する評価	定期試験(70%)・授業後の課題及びまとめ(30%)		
授業時間外の学修 (準備・復習)	授業資料を読み込み、課題を作成する		

授業科目名	社会的養護Ⅱ	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	池永 浩造	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
授業の概要			
・入所型児童福祉施設の事業目的や役割、機能、そして今日的な課題等を概説すると共に、施設に入所してくる子どもの抱えるさまざまな養護問題の解決的支援のあり方も視野に入れながら、施設保育士としての日常生活援助や自立支援への専門的な役割について理解を深める。また、子どもとの直接的な関係性からその重要性を確認する。			
授業のテーマ及び到達目標			
・児童虐待など多くの課題を抱える社会的養護の実践の場である児童福祉施設について、特に児童養護施設などでの複雑な入所問題や施設生活の課題、また入所児の家庭状況などを知ることから、養護問題の解決に繋がる支援や日常生活の援助のあり方を理解する。そのうえで、施設養護の現場において子どもの最善の利益を優先した支援が提供できる施設保育士としての力をつけていく。			
授業計画			
第1回：社会的養護の領域①	社会的養護における施設養護の領域と役割		
第2回：社会的養護の領域②	施設養護での施設の事業目的やその機能		
第3回：子ども理解と社会的養護①	複雑化する施設の養護問題と子どもの現状		
第4回：子ども理解と社会的養護②	子どもが抱える問題や課題とその背景		
第5回：施設養護の生活①	施設入所と子ども権利ノート		
第6回：施設養護の生活②	施設での日常生活援助(1)		
第7回：施設養護の生活③	施設での日常生活援助(2)		
第8回：施設養護の生活④	施設におけるリービングケアと退所		
第9回：社会的養護の支援①	施設での自立支援及び進路指導の演習		
第10回：社会的養護の支援②	施設からの家庭復帰とアフターケア		
第11回：社会的養護の支援③	施設での集团的援助及び個別的支援に関する演習		
第12回：社会的養護と虐待	被虐待児の理解と施設での支援に関する演習		
第13回：社会的養護と地域	地域の子育て支援と施設の地域化		
第14回：社会的養護の実施者	施設養護に関わる職員の専門性と倫理		
第15回：まとめ	社会的養護における子どもを援助することの意味		
定期試験			
テキスト	使用しない。ただし、授業に関する資料を適宜配布する。		
参考書・ 参考資料等	必要に応じ授業内で紹介する。		
学生に対する 評価	定期試験（60％）・課題レポートなど（40％）		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後60分程度の予習・復習を行うこと 課題レポートを作成する		

授業科目名	子育て支援	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	野村 和樹	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 現代の子育て家庭を取り巻く社会状況と子育ての現状を概観し、子育て支援に関わる法制度を学修する。子どもおよび保護者に対する支援の具体的な展開過程とその実際を概説する。また、保育の専門性に基づく子育て支援の内容や方法、技術等について実践的に学ぶ。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・子育て支援に関わる法制度を理解する。 ・保育の専門性に基づく子育ての内容や方法、技術等について、事例を通じて、実践的に考察できる。 ・地域の子育て課題を理解し、解決方法について考察できる。			
<b>授業計画</b> 第1回：こども基本法 第2回：子ども子育て支援法Ⅰ 第3回：子ども子育て支援法Ⅱ面接技法Ⅰ 第4回：面接技法Ⅰ 第5回：面接技法Ⅱ 第6回：ソーシャルワークとはⅠ 第7回：ソーシャルワークとはⅡ 第8回：子育て支援 事例検討 第9回：アセスメントと支援計画の立案Ⅰ 第10回：アセスメントと支援計画の立案Ⅱ 第11回：就学していない児童 第12回：体罰によらない子育て 第13回：専門職と倫理 第14回：保育士倫理要綱 第15回：まとめ <b>定期試験</b>			
テキスト	レジュメを配布		
参考書・参考資料等	適宜紹介		
学生に対する評価	定期試験(70%)・講義形式が中心（グループワークで活動）(30%)		
授業時間外の学修 (準備・復習)	授業レジュメを読み、予習・復習に取り組む		

授業科目名	保育実習 I - 2	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	野中耕次・小林 浩之 西尾千鶴代	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（80時間）
開講学年・時期	1年生・実習（8～9月）	授業方法・担当形態	実習・複数
<b>授業の概要</b> 保育所保育士としての視点のみにとらわれるのではなく、自己の育ちの場、再発見の場として、施設実習に臨んでもらいたい。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 近年、さまざまな困難をかかえた子どもたちの保育所入所が急増している。このようなケースに対応すべく、施設における実習を通じて、何らかの障害を持つ子どもたちへの理解と対応の体験の必要性が高くなってきている。			
<b>授業計画</b> [実習の意義] これまで講義形式で学び、修得してきた理論的・技術的内容を、福祉施設でいかに役立て、応用できるかを学ぶ。  [実習の目的] 施設の機能と役割の理解 対象児童（者）の理解 施設職員の職務の理解  [実習中の注意] 施設の方針や生活を理解し、早く施設の雰囲気に溶け込むように努力する。施設職員の指示に従い、謙虚な気持ちで助言を率直に受け入れる努力をする。入所あるいは通所児童（者）に接し、積極的に学ぶ努力をする。学ぶ姿勢、服装、言動には充分留意する 守秘義務の原則を厳守する			
テキスト	施設実習パーフェクトガイド わかば社 守巧		
参考書・参考資料等	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型こども園教育・保育要領		
学生に対する評価	施設実習の評価は、実習への事前準備、取り組む姿勢。利用者への対応の仕方を学び、評価については、実習記録及び実施評価が対象となる。		
授業時間外の学修（準備・復習）	実習前後・実習中、質問を受ける		

授業科目名	保育実習Ⅰ－Ⅰ（保育所）	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	河合 美保・小林 浩之 杉本 万貴子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（80時間）
開講学年・時期	1年生・実習（2～3月）	授業方法・担当形態	実習・複数
<b>授業の概要</b> 初めての実習になるので、担当教員が保育所実習指導者の経験を生かして、実際の現場での実習生への指導のポイントを事例とともに紹介し指導していく。実習を通して、「保育所と保育士についての理解」をより深める。また、現場で必要なマナーや求められる保育士の資質を、身に付けられるようにする。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 保育実習Ⅰは、保育士資格取得のために必修であり、実際の現場を体験する非常に大切な科目である。8月に行う保育所での実習と毎週行う講義によって構成される。学内での理論的な学びを具体的な保育の現場に活かし、自分の目で確かめ、体験したりして、理論を実践に応用していけるようにする。			
<b>授業計画</b> [事前指導] ・実習の意義と目的、実習の目標と課題、そして心構え ・実習日誌の書き方 ・必要書類とオリエンテーションについて ・保育士としてのマナー、姿勢（秘密保持の原則なども） （保育実習・実習の参加形態は「観察実習」「参加実習」が主） 1、保育所の役割や機能について具体的な実践を通して保育の理解を深める 2、子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める 3、既習の教科や実践的講義の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ 4、保育の観察、実践、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める 5、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する 6、保育士としての自己の課題を明確化する ・訪問指導、実習中日誌指導等 [事後指導] ・お礼状の書き方（下書き） ・ノートの書き方について見直し、実習の感想・反省 ・次の保育実習に向けて、まとめ			
テキスト	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型こども園教育・保育要領		
参考書・参考資料等	適宜、必要に応じて紹介		
学生に対する評価	今回の実習は、「観察実習」「参加実習」が主となる。授業内で指導した「保育士になるために必要なマナー・心がけ・資質」を事前指導・実習中・事後指導にて確認し、実践できるように取り組む。評価については、実習期間中の実習記録及び実施評価となる。事前オリエンテーションでの学習記録。		
授業時間外の学修（準備・復習）	実習前後・実習中、質問を受ける		



授業科目名	保育実習指導 I	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	野中 耕次・小林 浩之 西尾 千鶴代	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位 (60時間)
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	演習・複数
<b>授業の概要</b> 保育実習 I -2(1 年前期)・保育実習 I -1(1 年後期)・保育実習 II (2 年前期) それぞれの実習のねらい、目的に合わせて、講義を実施。 実習期間と学習は、対応して進められている。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 保育実習の意義・目的を理解する。 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 子どもの人権と最善の利益を理解し、プライバシーの保護につとめる。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 保育実習について（施設） 第2回：実習の意義、児童福祉施設での実習の目的 第3回：施設実習の意義と位置付け 第4回：児童福祉施設の理解①（乳児院の紹介） 第5回：児童福祉施設の理解②（知的障害者施設の紹介） 第6回：児童福祉施設の理解③（重症心身障害者施設の紹介） 第7回：児童福祉施設の保育士の役割 第8回：実習生の立場と心構え、事前学習の内容 第9回：実習関係の書類作成（実習生調査票・秘密保持誓約書） 第10回：実習事前訪問（オリエンテーション）に向けての準備等 第11回：実習日誌の書き方① 第12回：実習日誌の書き方② 第13回：配属された施設について理解と事前準備 第14回：実習終了後のお礼状等について 第15回：総まとめと事前レポート、面談等 <b>定期試験</b>			
テキスト	施設実習パーフェクトガイド 守巧・小櫃智子他 わかば社 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型こども園教育・保育要領		
参考書・ 参考資料等	レジュメ、DVD、スライド写真、日誌他		
学生に対する 評価	定期試験（70％）、授業内の提出物（30％）		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	予習・復習に取り組む 実習振り返りレポート等を作成する		

授業科目名	保育実習指導 I	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	河合 美保・小林 浩之 杉本 万貴子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位(60時間)
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	演習・複数
<b>授業の概要</b> ・ 保育実習 I-1（保育所）に関する事前および事後指導を行う ・ 事前指導 保育実習 I-1 を行うために必要な基礎知識を習得する ・ 事後指導 学習の振り返りと自己評価をもとに、保育者としての専門性向上のための課題について明確化を図る			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 1. 保育実習 I の意義、目的、実習内容を理解し、自ら実習課題を明確にする 2. 実習に対して意欲を持ち、事前準備を積極的に行う 3. 記録、改善、評価の方法や内容について具体的に理解する			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション「保育実習 I-2」振り返り 第2回：「保育実習 I-2」評価とグループでの分ち合い 第3回：保育実習の意義 第4回：実習の心構え 第5回：実習園を決める 第6回：実習園を決める 依頼の仕方 第7回：実習課題を考える 実習生調査票下書きと共に 第8回：書類を記入する 実習生調査票・課題 第9回：実習日誌の書き方① 第10回：実習日誌の書き方② 第11回：実習園オリエンテーション 依頼について 第12回：オリエンテーションについて 第13回：実習事前確認 第14回：実習における観察のポイント 第15回：実習中のポイント確認 <b>定期試験</b>			
テキスト	幼稚園・保育園・認定こども園実習 パーフェクトガイド 著：小櫃 智子他 わかば社		
参考書・参考資料等	レジュメ、日誌他		
学生に対する評価	定期試験(70%)、レポートや課題提出(30%)		
授業時間外の学修 (準備・復習)	予習・復習に取り組む 実習振り返りレポート等を作成する		

授業科目名	保育実習Ⅱ（保育所）	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	河合 美保・小林 浩之 杉本 万貴子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	2単位（80時間）
開講学年・時期	2年生・実習（7～8月）	授業方法・担当形態	実習・複数
<b>授業の概要</b> 担当教員が保育所実習指導者の経験を生かして、実際の現場での実習生への指導のポイントを事例とともに紹介し指導していく。実習を通して、「保育所と保育士についての理解」をより深める。また、現場で必要なマナーや求められる保育士の資質を、身に付けられるようにする。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 保育実習Ⅱは、保育士資格取得のために必修であり、実際の現場を体験する非常に大切な科目である。6月に行う保育所での実習と毎週行う講義によって構成される。学内での理論的な学びを具体的な保育の現場に活かし、自分の目で確かめ、体験したりして、理論を実践に応用していけるようにする。			
<b>授業計画</b> <b>〔事前指導〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の意義と目的、実習の目標と課題、そして心構え</li> <li>・実習日誌の書き方</li> <li>・必要書類とオリエンテーションについて</li> <li>・保育士としてのマナー、姿勢（秘密保持の原則なども） （保育実習・実習の参加形態は「観察実習」「参加実習」が主）</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、保育所の役割や機能について具体的な実践を通して保育の理解を深める</li> <li>2、子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める</li> <li>3、既習の教科や実践的講義の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ</li> <li>4、保育の観察、実践、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める</li> <li>5、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する</li> <li>6、保育士としての自己の課題を明確化する</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問指導、実習中日誌指導等</li> </ul> <b>〔事後指導〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お礼状の書き方（下書き）</li> <li>・ノートの書き方について見直し、実習の感想・反省</li> <li>・次の保育実習に向けて、まとめ</li> </ul>			
テキスト	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型こども園教育・保育要領		
参考書・参考資料等	「パーフェクトガイド」「保育所運営マニュアル」網野武博他中央出版、レジメ、DVD、スライド写真、日誌他		
学生に対する評価	今回の実習は、「総合実習」となるため、習得した各教科の内容を実践で確認し、自己の保育観や意識をより高める実習であり、部分実習および設定保育のための事前準備に取り組む姿勢（準備段階も含む）も評価対象となる。評価については、実習記録及び保育実践の実施評価となる。		
授業時間外の学修（準備・復習）	実習前後・実習中、質問を受ける 実習振り返りレポート等を作成する		

授業科目名	保育実習指導Ⅱ	科目区分	保育に関する科目
担当教員名	河合 美保、小林 浩之 杉本 万貴子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	必修科目	単位数	1単位（30時間）
開講学年・時期	2年生 前期・後期	授業方法・担当形態	演習・複数
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園での概要を共有することで、多様な園文化や違いの中から共通点を見つける。</li> <li>・実習の反省と自己評価を行い、自分自身を見つめ直し、課題を解決していく。</li> <li>・思い描く保育者像と、それに向かう準備を行う。</li> </ul>			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育理論の学びを活かし、実習を通して保育技術を習得し、理論と実習の結びつきを理解し、保育者としての専門性や資質を高める。</li> <li>・実習で経験したことを自己で振り返り、共有することで新たな保育観を拓ける。</li> </ul>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：オリエンテーション 実習園の情報共有</p> <p>第2回：保育実習Ⅱにおける自己評価と課題・目標に対する省察①・振り返りシート</p> <p>第3回：保育実習Ⅱにおける自己評価と課題・目標に対する省察②・振り返りシート</p> <p>第4回：保育実習Ⅱにおける自己評価と課題・目標のまとめ ※保育士登録について</p> <p>第5回：実習日誌を見返して</p> <p>第6回：実習日誌から見える傾向</p> <p>第7回：責任実習について・実施内容・自己評価・課題①</p> <p>第8回：責任実習について・実施内容・自己評価・課題②</p> <p>第9回：責任実習について・実施内容・自己評価・課題③</p> <p>第10回：子どもとのエピソード そこからみえるもの</p> <p>第11回：保育者とのエピソード そこからみえるもの</p> <p>第12回：トラブルや困ったこと具体的に・・・ 解決にむけて</p> <p>第13回：「実習から学んだこと、保育者に向かった新たな課題」①</p> <p>第14回：「実習から学んだこと、保育者に向かった新たな課題」②</p> <p>第15回：まとめ</p> <p><b>定期試験</b></p>			
テキスト	「幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド」 小櫃智子他 わかば社		
参考書・ 参考資料等	レジュメ、日誌他		
学生に対する 評価	定期試験(70%) レポートや課題提出(30%)		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	予習・復習に取り組む 実習振り返りレポート等を作成する		

授業科目名	レクリエーション活動援助法	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	梶本 智子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	選択科目	単位数	2単位・60時間
開講学年・時期	1年生・前期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 健康づくり、子育て支援、地域づくりなどの幅広い領域に各種レクリエーション活動の活用で自主参加、自己充実、きっかけづくりを図り、グループワーク等を通して、人のつながり人とかかわりなど広い基本を理解する。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 幅広い年齢層に対応できる支援者として、様々な Activity 活動を通して、楽しい生活を支援できる技術の習得及び支援の概要を理解することを目指す。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション レクリエーション概論 第2回：レクリエーション、インストラクターの役割 第3回：楽しさをとoshした心の元気づくり理論 第4回：楽しさをとoshした心の元気づくり、対象者の心の元気づくり 第5回：心の元気と 地域のきずな 第6回：コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 第7回：レクリエーション支援の方法 ゲーム 第8回：アイスブレイキングモデルの演習 第9回：CSSプロセスの習得 第10回：自主的主体的に楽しむ力を育む理論 第11回：コミュニケーションと信頼関係づくりの理論、 第12回：ホスピタリティあたたかくもてなす意識と配慮 第13回：ニュースポーツの演習 第14回：良好な集団づくりの理論 第15回：レクリエーション理論の振り返り <b>定期試験</b>			
テキスト	楽しさをとoshした心の元気づくり（公益財団法人 日本レクリエーション協会編）		
参考書・ 参考資料等	レクリエーション支援の方法（（公益財団法人）日本レクリエーション協会 レクリエーション支援の基礎（（公益財団法人）日本レクリエーション協会 レクリエーション支援の理論と方法（公益財団法人）日本レクリエーション協会編		
学生に対する 評価	定期試験（70％） 実践指導（30％）		
授業時間外の 学修 (準備・復習)	授業前後に、予習・復習に取り組む 実践指導に向けて、準備する		

授業科目名	レクリエーション活動援助法	科目区分	教職・保育に関する科目
担当教員名	梶本 智子	施行規則に定める 科目区分又は事項等	
必修・選択科目	選択科目	単位数	2単位・60時間
開講学年・時期	1年生・後期	授業方法・担当形態	演習・単独
<b>授業の概要</b> 健康づくり、子育て支援、地域づくりなどの幅広い領域に各種レクリエーション活動の活用で自主参加、自己充実、きっかけづくりを図り、グループワーク等を通して、人のつながり人とのかかわりなど広い基本を理解する。			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 幅広い年齢層に対応できる支援者として、様々な Activity 活動を通して、楽しい生活を支援できる技術の習得及び支援の概要を理解することを目指す。			
<b>授業計画</b> 第1回：レクリエーション活動の実施Ⅰ（ダンス） 第2回：レクリエーション活動の実施Ⅱ（クラフト） 第3回：レクリエーション活動の安全管理（リスクの予防と回避、緊急対応、保険） 第4回：レクリエーション活動の習得Ⅰ（成功体験の積み重ね、ゲーム） 第5回：レクリエーション活動の習得Ⅱ（ハードル設定） 第6回：レクリエーション活動の習得Ⅲ（CSSプロセス） 第7回：レクリエーション支援、アレンジの方法（活動分析） 第8回：良好な集団作りの方法・アイスブレイキングモデル 第9回：レクリエーション活動の実施Ⅲ（クラフト） 第10回：レクリエーション支援プログラム立案Ⅰ（A-PIEプロセス） 第11回：レクリエーション支援プログラムの立案Ⅱ 第12回：レクリエーション支援プログラムの施行及び改善Ⅰ 第13回：レクリエーション活動の実施Ⅳ（歌の良さを生かすレクリエーション活動） 第14回：レクリエーション支援プログラムの施行及び改善Ⅱ 第15回：実技復習と振り返り（筆記試験に向けて） <b>定期試験</b>			
テキスト	楽しさをとoshita心の元気づくり（公益財団法人 日本レクリエーション協会編）		
参考書・ 参考資料等	レクルーrecrew（公益財団法人日本レクリエーション協会編） アイスブレイキングゲーム集（（財）日本レクリエーション協会編）		
学生に対する 評価	定期試験（70％） 実践指導（30％）		
授業時間外の 学修 （準備・復習）	授業前後に、予習・復習に取り組む 実践指導に向けて、準備する		